「阿南市と大正大学の連携協力に関する協定」に基づく
地方創生・地域の活性化等に関する研究事業

令和4年度成果報告書

阿南市UIJターン調査

関係人口＆UIJターン促進に向けた政策的集中と選択ポイントの考察

令和5年3月
大正大学　地域構想研究所
シティプロモーションプロジェクト

目次

1 調査の背景 07

1―1．阿南市の政策的背景

1―2．全国調査からみた阿南市の現状

・大学生の地元就職希望の傾向

・阿南市転出入の特徴（国勢調査より）

・阿南市の地域資源の特徴（ワークショップ、ヒアリング調査より）

・統計調査からみる阿南市の特徴

2 調査の目的と概要 17

2－1．本調査の目的

2―2．各調査の位置づけ

2―3．調査概要

3 UIターンの実態 23

（調査結果と考察のダイジェスト ⇒結果全体は「調査データ集」にて）

3－1．UIターン者の基本属性

・UIターンは全体の62.9%

・UIターンの属性

３－２．阿南市への移住きっかけと決断要因

・全ての移住者　転･就職タイミングが移住を意識させる
・近隣UIターン　仕事＋子育て環境が決めて
・ Uターン　仕事＋郷土愛＋友人・知人の存在
・Iターン　仕事都合がメイン

３－３．仕事の決まり方

4 **総括と提言** 39

4-1．有識者・職員ワークショップでの意見
4-2．調査からみえてきた移住先としての強み
4-3．調査からみえてきた課題
4-4．次年度以降の集中と選択ポイント（提言)

調査データ集　（別冊） 49

「阿南市UIJターン促進事業/阿南市での就労等に関するアンケート調査」
・基本集計結果
・アンケート自由回答集

調　　査：大正大学地域構想研究所
シティプロモーションプロジェクト
分析＆執筆：中島ゆき（主任研究員）

1

調査の背景

１．調査の背景

1-1. 阿南市の政策的背景

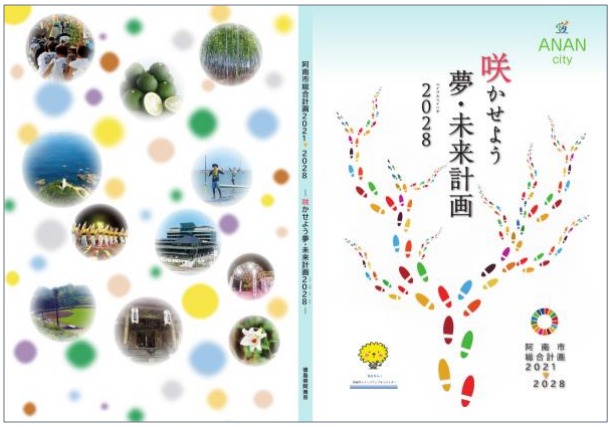
阿南市のUIJターン促進事業

阿南市に限らずであるが、日本全国多くの地方自治体で人口減少や少子化に歯止めがかからない中、地域はそれぞれの地域資源を生かした課題解決に取り組んで久しい。阿南市では、中期計画として2028年の都市像「多様な産業が咲き誇る生涯チャレンジ都市 阿南」 が掲げられている（「阿南市総合計画 ～ 咲かせよう夢 ・ 未来計画２０２８」）が、その中で、特に「４.産業・交流」では「UIJターンの促進による地域経済好循環の実現」がミッションとなっており、以下となっている。

「人口減少社会の克服には、**経済の活性化はもとより、移住・定住人口や関係・交流人口の増加による地域の活力の創出が不可欠**です。四国横断自動車道や阿南安芸自動車道の開通による交通の利便性の向上を視野に入れ、関係団体や事業者とも連携して農林水産業や商工業の振興を図るとともに、**新産業の創出や企業立地を推進し、雇用の拡大**に努めます。また、「光のまち」や「野球のまち」、「ＳＵＰタウン」など、本市の“顔”としての地域ブランディングはもとより、地域資源を活用した観光などの新事業の創出、中心市街地の活性化などに取り組み、**移住・定住の促進や関係・交流人口の拡大につなげ**、地域の活力を創出します。」（阿南市総合計画2021▶2028 ～咲かせよう夢・未来計画2028～　概要版P9より転載／太字下線は筆者追記）

すなわち、地域の経済活性化と人口減少克服は両輪で必要であり、その根底には既存産業の活性化はもとより、新産業の創出などによる雇用の拡大が必須となってきていることを示す計画の位置づけへと強調されてきている。

図表１章ー①　阿南市総合計画2021▶2028



図表１章ー②　阿南市総合計画2021▶2028
（概要版　P9）

政策Ⅳ　地域資源を生かした新たなにぎわいと活力を創出するまちづくり

人口減少社会の克服には、経済の活性化はもとより、移住・定住人口や関係・交流人口の増加による地域の活力の創出が不可欠です。四国横断自動車道や阿南安芸自動車道の開通による交通の利便性の向上を視野に入れ、関係団体や事業者とも連携して農林水産業や商工業の振興を図るとともに、新産業の創出や企業立地を推進し、雇用の拡大に努めます。また、「光のまち」や「野球のまち」、「SUPタウン」など、本市の“顔”としての地域ブランディングはもとより、地域資源を活用した観光などの新事業の創出、中心市街地の活性化などに取り組み、移住・定住の促進や関係・交流人口の拡大につなげ、地域の活力を創出します。

分野ごとのビジョン

1 農業・林業・漁業
持続可能な農林漁業のまちづくり

2 工業
産業振興で活力あるまちづくり

3 商業
商業の振興によるにぎわいと豊かなまちづくり

4 観光
豊かな地域資源を生かした観光・スポーツツーリズムのまちづくり

5 雇用環境
誰もがいきいきと働き続けられるまちづくり

6 交流
地域資源を生かした関係人口の創出・拡大と持続可能なまちづくり

主要な施策の例

2－1 ▶ 既存企業の操業拡大と応援態勢の強化

成果指標の例

2－1 ▶ 市内主要企業で働く従業員数

9,286人　2028年 11,000人

１．調査の背景

大正大学と阿南市との連携協定に基づく、これまでの調査

阿南市と大正大学とは連携協定に基づき2020年から「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」に着手してきた。同調査では、先のUIターン促進の一環とした「阿南市の関係人口創出」の実態を明らかにしたものである。現在の阿南市の関係人口はどのような人たちであるのか、また今後は阿南市にどういった人を呼び込むべきなのか、などを可視化してきた。

具体的には、以下の３点が主に明らかとなってきた。

①イベントによる関係人口誘致効果は見られたが、現地の周遊効果が低い傾向がみられた。

⇒すなわち、今後はイベント開催にからめ、地域をより満喫でき阿南市との関係を深めるコンテンツが必要であることが示唆された。

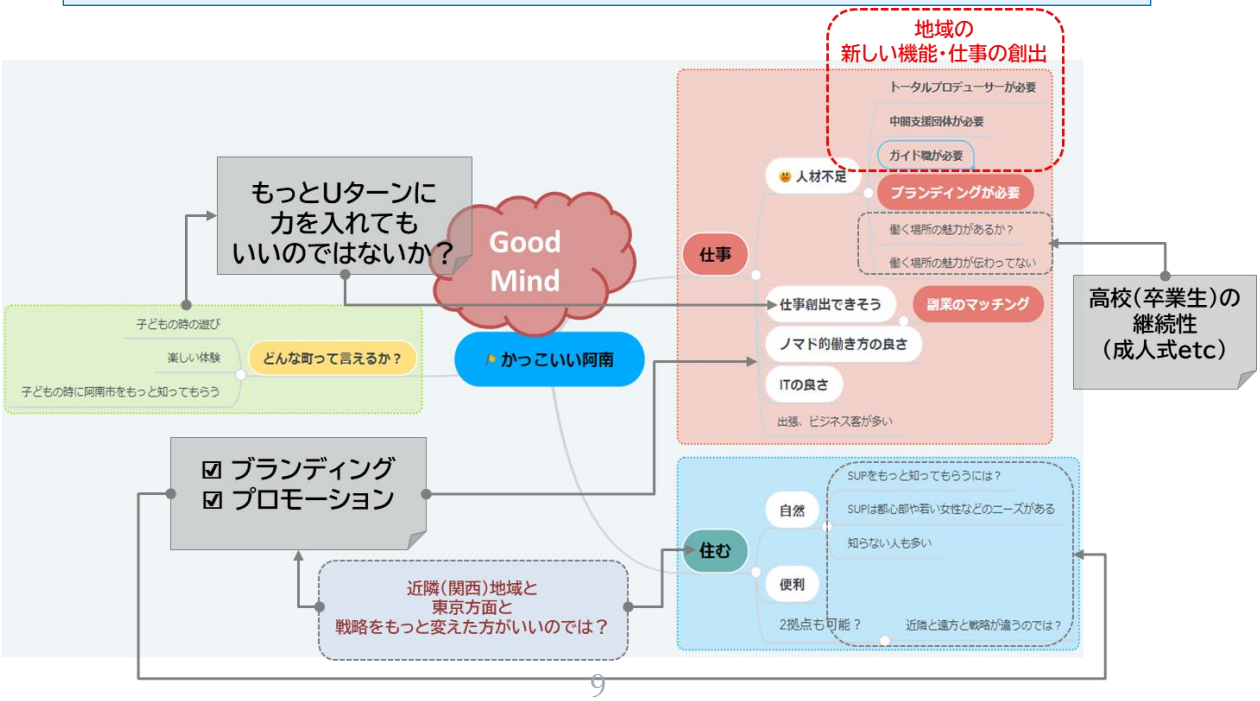
②阿南市の関係人口には主に３属性が存在している。

⇒すなわち、今後はそれぞれの属性に合った阿南市との接点や情報発信がより効果的であることが示唆された。

③阿南市は移住先として**「仕事の見つけやすさ」と「自然環境の良さ」「生活利便性」**に魅力を感じている。

以上のポイントが明らかになってきた。これらの結果を受け、今後は関係人口を活かしながら、「若者のUIJターン」の促進強化にまだまだ伸びしろがあると考察された。

図表１章ー③　関係人口を核としたシティプロモーションの検証　報告書（P37）抜粋



1-2. 全国調査からみた阿南市の現状

全国大学生の地元就職希望の傾向

地元就職（Uターン含む）希望者は62.6%

地元就職を希望する学生は2年連続で増加

学生向け就職情報を提供する株式会社マイナビが、「2023年卒 大学生Uターン・地元就職（※1）に関する調査」を発表している。

まず、「あなたが地元（Uターン先含む）だと認識する範囲の都道府県」について答えてもらったところ、徳島県出身の学生は、徳島県以外に香川県に対して29.2%程度地元意識を持っていることがわかった。また、対して香川県出身の学生は21.2%程度が徳島県も地元就職の範囲と考えていることがわかった。（図表１章ー④）

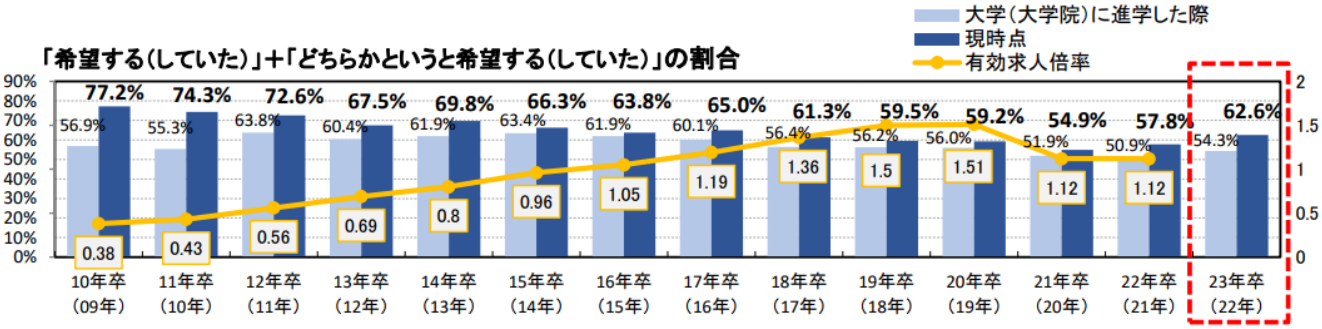
この地元意識を前提に、2023年3月卒業予定の全国の大学生、大学院生で、地元（Uターン含む）就職を希望する割合は62.6%（前年比4.8pt増）で2年連続の増加となった。（図表1章ー⑤）

図表１章ー④　地元（Uターン含む）就職希望者

卒業高校都道府県	卒業高校都道府県との一致	地元と思う地域1	地元と思う地域2
徳島県	100%	香川県：29.2%	―
香川県	100%	愛媛県：29.2%	徳島県：21.2%

出所：「マイナビ2023年卒大学生 Uターン・地元就職に関する調査」P12より筆者作図

図表１章ー⑤　地元（Uターン含む）就職希望者



転載：「マイナビ2023年卒大学生 Uターン・地元就職に関する調査」P3より

（※１）同調査の地元は基本「県」単位。すなわち、高校卒業県と就職希望県が同じ場合に「地元就職」となる。

P９，10の出典
「マイナビ2023年卒大学生 Uターン・地元就職に関する調査」
https://career-research.mynavi.jp/reserch/20220511_27878/

調査期間	2022年3月18日～4月6日
調査対象	2023年3月卒業見込みの全国大学3年生、大学院1年生（調査開始時点）
調査方法	WEB入力フォームによる回収
有効回答数	5,420名

この背景としては「コロナ禍前は求人倍率の高まりにあわせて地元就職希望が減少し、都市圏の大手企業などの就職意向が高まっていた。一方で、コロナ禍以降は求人倍率がやや低下し、経済状況が不透明であることなどから地元就職意向が高まったと推察される。」と、コロナの影響があることを調査元の株式会社マイナビは指摘している。

徳島県出身大学生の地元就職希望者は42.3%
全国ワースト2位

出身県別でみると、地元での就職を希望すると答えた学生の割合は、徳島県は42.3%（内訳は「希望する」が29.2%で「どちらかというと希望する」が13.1%）。この数値は、全国で青森県の37.9%に次いでワースト２の数値となっている。ちなみに、四国エリアの県別をみると香川県が49.5%、愛媛県が56.7%、高知県が44.6%であり、四国が全体的に低い傾向にある。（図表１章ー⑥）エリア別では四国が最も地元就職希望割合が低い傾向になっている。（図表１章ー⑦）※但し、これらの差は大きくないため年度により異なるが、毎年やや東北、四国が低い傾向はみられている。

図表１章ー⑥　卒業高校県別の大学生の地元（Uターン含む）就職希望者

	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
希望する	29.2%	26.1%	30.3%	35.7%
	42.3%	**49.5%**	**56.7%**	**44.6%**
どちらかというと希望する	13.1%	23.4%	26.4%	8.9%
どちらかというと希望しない	29.3%	25.5%	22.7%	33.2%
全く希望しない	28.4%	25.0%	20.6%	22.3%

「希望する」と「どちらかというと希望する」の合算

図表１章ー⑦　卒業高校エリア別の大学生の地元（Uターン含む）就職希望者

卒業高校エリア	希望する＋どちらかと言うと希望する割合	卒業高校エリア	希望する＋どちらかと言うと希望する割合	卒業高校エリア	希望する＋どちらかと言うと希望する割合
北海道	58.6%	甲信越	57.7%	関西	65.8%
東北	54.5%	東海	69.7%	中国	62.3%
関東	62.4%	北陸	59.2%	四国	51.0%
—	—	—	—	九州	62.2%

出所：「マイナビ2023年卒大学生 Uターン・地元就職に関する調査」P34より筆者作図

1-2. 全国調査からみた阿南市の現状

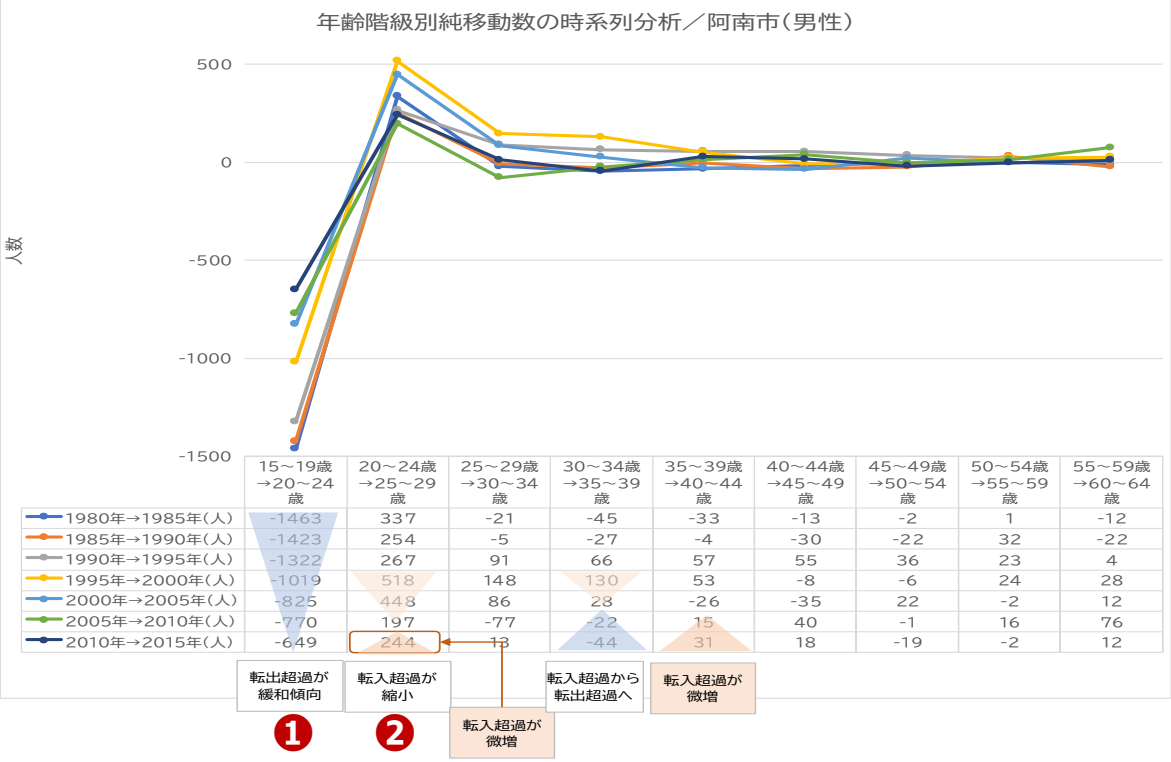
年代別、男女別にみる社会移動推移

20代男性の転出超過はやや緩和傾向
子育て期女性が転入から転出超過へ、単身転勤の増加も可能性として考えられる

地域のＵＩターンがどの程度であるかを正確に測るのは非常に難しいが、最も近い調査データが住民票移動をベースにした総務省「住民基本台帳人口移動報告」であり、それと合わせて国勢調査で５年ごとに明らかになっている年代別の居住地をもとに、地域の転出と転入の状態を表したものが「年齢階級別純移動数の時系列分析」である。（図表章１ー⑧⑨）

このグラフでは、阿南市の男性について、たとえば、「1980年の15～19歳人口が、20～24歳になった1985年に何人増減しているか」すなわち、「何人残っていて、何人市外へ転出したか」その差を示したものである。その差が＋の場合は「転出入超過＝入ってくる人（あるいはUターン）の方が多い」ことを示しておりグラフの「0」より上になる。対して－の場合は、「転出超過＝出ていく人の方が多い」ことを示しておりグラフの「0」より下になる。

図表１章ー⑧　年齢階級別純移動数の時系列分析／阿南市（男性）



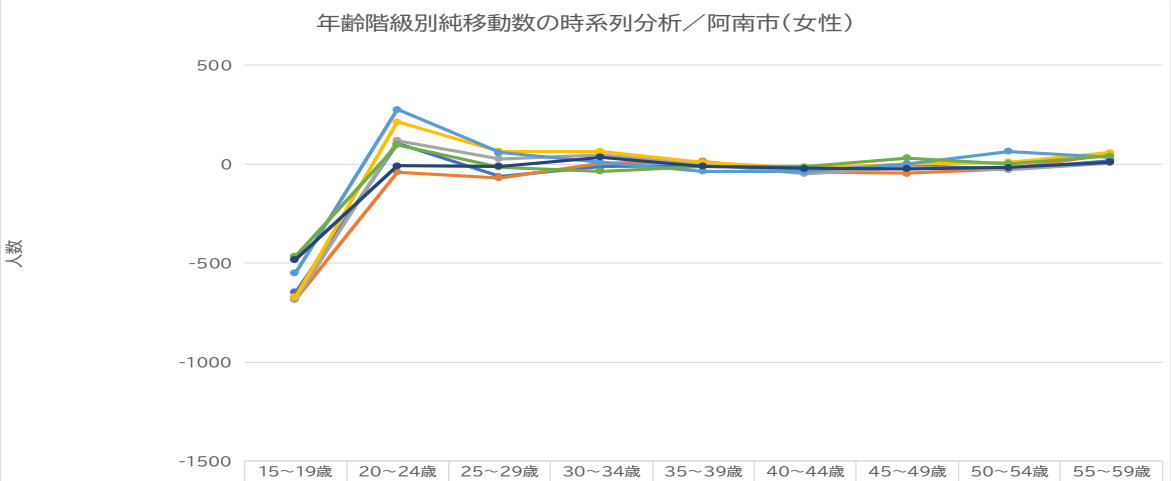
	15～19歳→20～24歳	20～24歳→25～29歳	25～29歳→30～34歳	30～34歳→35～39歳	35～39歳→40～44歳	40～44歳→45～49歳	45～49歳→50～54歳	50～54歳→55～59歳	55～59歳→60～64歳
1980年→1985年(人)	-1463	337	-21	-45	-33	-13	-2	1	-12
1985年→1990年(人)	-1423	254	-5	-27	-4	-30	-22	32	-22
1990年→1995年(人)	-1322	267	91	66	57	55	36	23	4
1995年→2000年(人)	-1019	518	148	130	53	-8	-6	24	28
2000年→2005年(人)	-825	448	86	28	-26	-35	22	-2	12
2005年→2010年(人)	-770	197	-77	-22	15	40	-1	16	76
2010年→2015年(人)	-649	244	13	-44	31	18	-19	-2	12

P12,13の出典
RESAS 「年齢階級別純移動数の時系列分析」より
総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成グラフを参照
グラフ編集および表内コメントは筆者作成

これによると、男性は「15～19歳→20～24歳」で1980年代からずっと転出超過が続いているが、毎年それが緩和傾向になっていることがわかる。（図表１章－⑧の❶）対して、「20～24歳→25～29歳」と「35～39歳→40～44歳」で転入超過が微増している。（図表１章－⑧の❷）このことは、**阿南市の男性は、進学や就職で市外に出た後、数年して戻ってくる人が多いこと、あるいはＩターンでやってくる人が増えてきていること、あるいは、阿南市から出ない人が多くなったこと**を示している。

女性のデータをみると、「15～19歳→20～24歳」で1980年代からずっと転出超過が続いていたものの、徐々に超過数が減ってきていることがわかる。（図表１章－⑨の❶）対して、「20～24歳→25～29歳」「25～29歳→30～34歳」「30～34歳→35～39歳」が転入超過であったものが、2005年ごろから転出超過に変わってきている。（図表１章－⑨の❷）このことは、**子育て年代の女性で阿南市にＵターンする人が減ったこと**、あるいは**Ｉターンで来る人が減ったこと**を示している。これにはさまざまな背景が考えられる。シンプルに子育て世代の女性のＵＩターンが減ったこと以外に、**男性の転入が増加傾向であることを考えると、以前は男性の転勤で一緒に転居してきた妻が減ったことも可能性**としては考えられる。

図表１章ー⑨　年齢階級別純移動数の時系列分析／阿南市（女性）



	15～19歳→20～24歳	20～24歳→25～29歳	25～29歳→30～34歳	30～34歳→35～39歳	35～39歳→40～44歳	40～44歳→45～49歳	45～49歳→50～54歳	50～54歳→55～59歳	55～59歳→60～64歳
1980年→1985年(人)	-647	105	-63	-12	-8	-25	-7	-26	18
1985年→1990年(人)	-683	-40	-68	7	14	-42	-45	-25	53
1990年→1995年(人)	-682	119	27	47	1	-48	-14	-28	7
1995年→2000年(人)	-670	214	65	64	9	-19	0	10	59
2000年→2005年(人)	-549	277	58	8	-36	-37	2	64	36
2005年→2010年(人)	-464	98	-15	-35	-11	-12	31	3	43
2010年→2015年(人)	-482	-8	-11	36	-11	-20	-22	-17	10
	転出超過が緩和傾向	転入超過から転出超過へ			転出超過が緩和傾向				

❶　❷

1-2. 全国調査からみた阿南市の現状

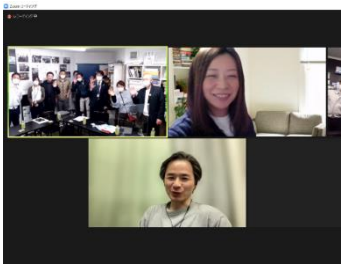
阿南市の地域資源の特徴
（ワークショップ、ヒアリング調査より）

昨年度までてきた、移住者から評価の高い阿南市の地域資源
キーワード「仕事」と「自然環境」「生活便利」

令和３年度には、地域の有識者や、また日ごとシティプロモーションや移住とは直接関係のない多部署の市職員参加によるとワークショップを数回実施した。テーマは「阿南市の地域資源を生かした関係人口創出・拡大のために何が必要か？」であったが、その意見出しをする前に、まずは調査で明らかになったことを参加者と共有した。 その一つに、「関係人口を核としたシティプロモーションの検証」のアンケート調査から、阿南市の関係人口には、大きく３タイプがみられることを共有した。そして、この３タイプに共通しているキーワードが「仕事（しやすい、になる）」と「自然環境」であった。またアンケート結果からは「生活便利」という項目も上位にあがった。

図表１章ー⑩　阿南市の関係人口　３大ペルソナと特徴

図表１章ー⑪　ワークショップの様子



ワークショップ実施概要
テーマ：地域資源を生かした関係人口創出・拡大のために何が必要か？
日時　　2021年11月9日（火）14：00～
日時　　2022年3月23日（水）18：30～

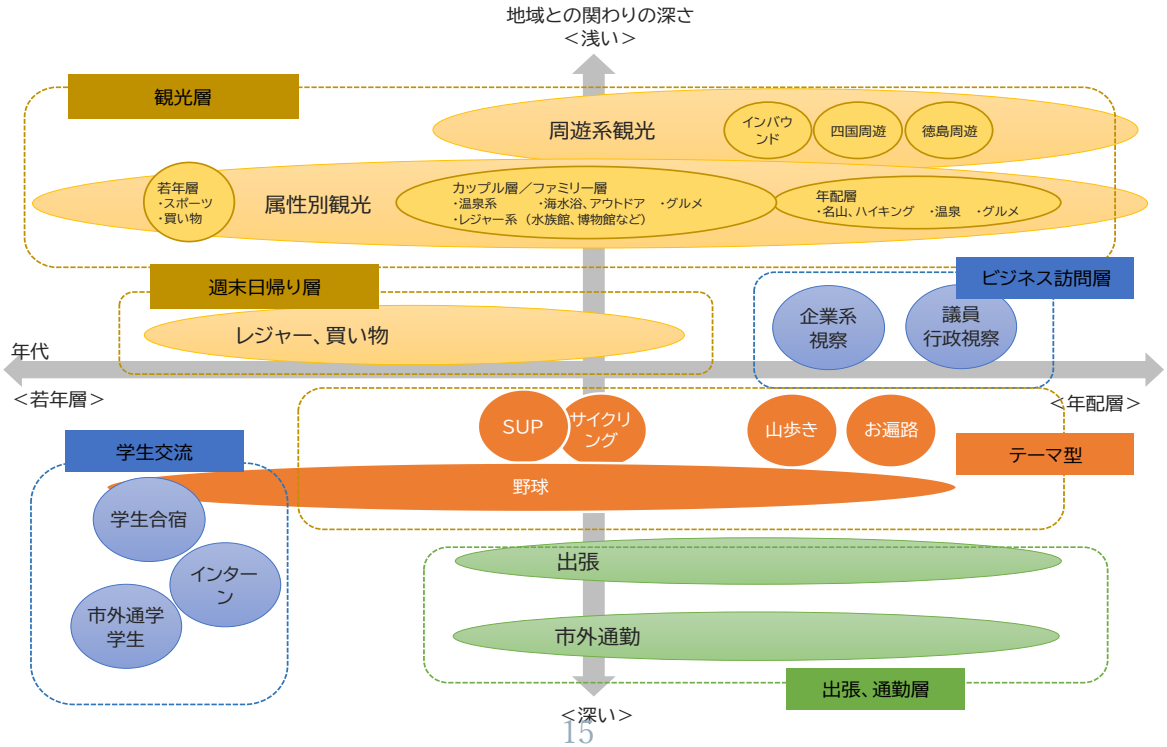
地域外の人が阿南市を知る（訪問する）
最初の接点に魅力的なものが多い

阿南市の関係人口はある一点に惹かれて関係人口になる（例えばSUPなど）ものの、その他の地域資源を満喫する様子が少ない傾向にあるのではないかという意見が挙がってきた。

この観点から、外部の人からみると最初の阿南市との接点として非常に魅力的な地域資源を有している。SUPやお遍路、四国周遊など、吸引力が高いと思われる。そこで、その**次につながるセカンド接点を増やす**ことで、より阿南市の魅力を知ってもらうことになり、移住促進にもつながる可能性が示唆された。

実際に、それではどういったセカンド接点が考えられるだろうか。そのために、まずは阿南市に訪問してくる人の最初の接点にはどのようなものがあるかを洗い出しし、来訪者マップ（図表１章－⑫）を作成した。

図表１章－⑫　阿南市の来訪者マップ



（ワークショップ、ヒアリング調査より）

そこから、出てきた意見をまとめると以下になる。

①地域資源を生かした2nd接点を作る（増やす）

既にある地域ブランドである「野球」「SUP」「お遍路」などと、阿南市の強みである「自然環境」と「仕事」をキーワードに、 2nd接点を作っていけないか。その際に挙がってきたキーワードには、仕事に関連した 「ガイド職」「コーディネーター」「マーケティング」など、新たなしごと創出と関係人口という接点の可能性が挙げられた。

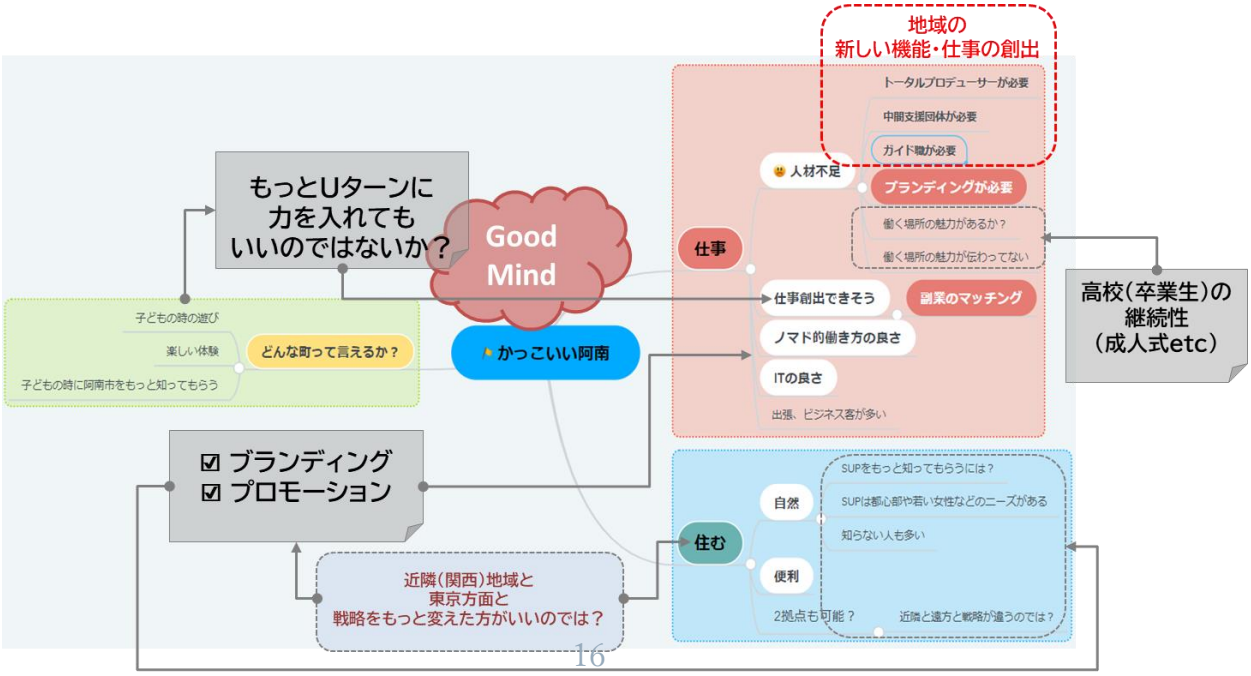
②多様な関係人口に2nd接点を知ってもらう

現在の大きな対象者として、お遍路やハイキングなどの観光の他、ふるさと納税者、移住希望者といった多様な関係人口に、上記①の情報を広く知ってもらうことが重要である。そのためにも、「コーディネーター」の育成やマーケティング職の地域外登用などもアイデアとして挙がる。今後、これらのコーディネートができることで、可能性が広がるであろう。

③UJターンにも大いに活用できる！

Uターン施策については、多くの人たちから「もっと増やせないか」という話が聞かれた。現時点でUJターンでリーチ可能なのは、各地のふるさと会など。また現在の在校生も含めて、今後は同窓会名簿などを一元的に、さらに永続的に整備していくこと。それにより、上記①②で挙がってきた体験や仕事の情報などを定期的に発信することも可能となる。

図表１章ー⑬　ワークショップであがった意見の概念図（再掲）



2
調査の目的と概要

２．調査の目的と概要

２-１．調査の目的

これまでの調査から、令和４年度は特に「UIターン促進」を中心に社会、関係人口の取り組みとの相乗効果を生むような社会実装に向けた準備とそのエビデンスとなる調査を行うこととした。特に阿南市では、今の若者に阿南市で住みたいと思わせる効果的かつ実現可能な施策を導き出したいという想いがあり、その実現に向けた準備となった。

【本調査の前身となった調査】

実は、阿南市では5年ほど前にふるさと未来課の前身である定住促進課が市内に居住する若者が考える「住みたいまち」「魅力のあるまち」について意見交換し、そこでアンケートを実施し、当時の職員の尽力で回答数は500を超えた調査が行われたことがある。学生は100人以上参加し、その中で「阿南市に愛着がある」とした学生は約75%だったが、「将来の進学・就職先は阿南市内を考えている」とした意見は約28%で、「進学や就職で県外に出ても将来阿南市に戻る予定」とした意見も約30%であった。自由回答が多いことも影響したのか、実現するには時間のかかる（または、ほぼ不可能に近い）回答や抽象的な意見が多く存在し、施策に反映させることが難しかったという反省を生かしたいという市からの要望もあった。

【本調査の協働】

本調査実施は、実は「若者定住委員会」の活動と意見が発端であり、そもそも前述のようにふるさと未来課が考えていた「効果的かつ実現可能な施策を導き出したい」という事と合致し、そのエビデンスとなる調査を行い提言につなげたいという目的で実施された。

【本調査の目的】

以上のことから、本年度は阿南市UIJターン促進事業「阿南市での就労等に関するアンケート調査」を以下の目的として実施した。

1. **阿南市UIJターン促進政策のために、何が必要かを明らかにすること**
2. **そのために、若者定住促進委員会との協働により、より実践的で効果的な取り組みを検討し、今後の提言につなげること**
3. **今後の阿南市でのUIJターン促進のために有益となるデータの集積を目指し、基礎データ収集の基盤を作ることで、今後も継続的にPDCAが回せる環境づくりを目指すこと**

2-2．各調査の位置づけ

令和３年度に実施した調査、および本年度に実施した調査の位置づけを整理する。

そもそも、UIターン調査を行うためには、阿南市から転出した人の意見が必要である。そのためには、一般的には転出時にアンケート調査を実施することが多い。しかしながら、実際には転出の際に細かいアンケートに回答してくれるケースは少なく、Uターンの地域外転出済み者への調査はハードルが高いと言われている。

そこで、本年度の阿南市UIJターン促進事業「阿南市での就労等に関するアンケート調査」においては、図表２章－①のように対象整理した。

（A）阿南市から転出した人で、現在阿南市に戻ってきていない人

すなわち、Uターン候補者となる訳だが、現時点でアプローチする方法がない。一方で、若者のUターン促進政策で最も必要となるのは、高校卒業後の若者とのコンタクト継続である。調査の前に、彼ら対象と継続的な連絡方法が必要であり、同窓会などの有効化は総括でも触れるが大きな課題であり、逆にここがリーチできることは大きな前進となるため、本報告書最後の提言では本件に触れている。

（B）阿南市へのＵＩターン者（プラス比較対象として阿南市にずっと在住している人）

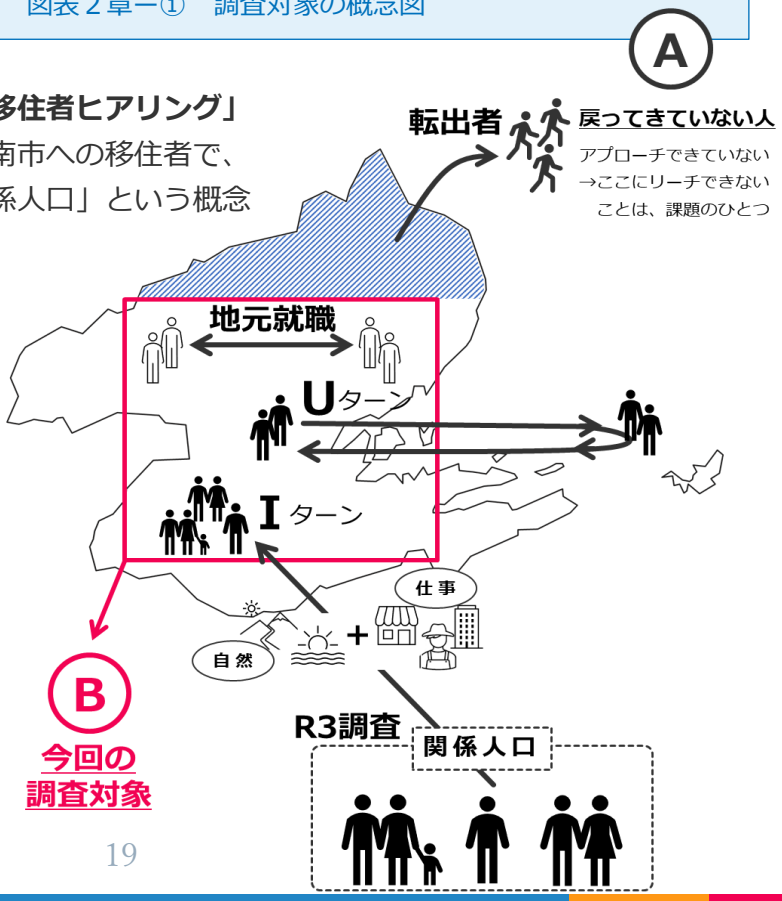
本年度の阿南市UIJターン促進事業「阿南市での就労等に関するアンケート調査」の対象者はここにあたる。調査の目的が「**UIJターン促進政策のために、何が必要かを明らかにすること**」であることから、今回は「 阿南市にお住いの18歳以上の方」を対象とした。

図表２章－①　調査対象の概念図

令和３年度調査「関係人口」「移住者ヒアリング」

昨年度実施した調査では、「阿南市への移住者で、もともと阿南市と縁のない人＝関係人口」という概念で調査を行った。

Ｉターンという概念の中には、この「関係人口」の他に、転勤で阿南市に来ざるを得なかった人、家族の転勤に一緒に来た人などが含まれている。これらは全くニーズも阿南市との関わり方も異なる対象であるため、本調査ではここの区別も明らかにしたい一つであった。



２-３．調査概要

実施方法

移住を決断するに際して重要なポイントとして「仕事」がある。そのため、阿南市で就業している人がどのように仕事が決まったのかは、UIターン政策の要でもあることから、「阿南市居住者」（広報による任意調査依頼）を対象にしつつ、主な回収先を企業（協働である商工会の声掛けと訪問によるダイレクト依頼）を中心としたため「就業者」を母集団としてアンケートの実施を行った。郵送によるアンケート調査費のコスト削減のためにこの方法をとった。これの問題点については、以下節で記す。

図表２章ー②　アンケート依頼チラシ

実施期間：2022年9月15日～10月31日

対象：阿南市にお住いの18歳以上の方

回収数：573

有効サンプル数：517（阿南市在住者のみ抜粋）

実施方法：以下の方法で告知しオンラインフォームで回答していただいた

①広報あなんにて告知　②表原市長や関係者のSNS　③商工会団体へ個別訪問

アンケートに必要なサンプルサイズの計算

アンケート調査結果をエビデンスとして有効にするためには、調査対象者への配布方法や回収率が重要となってくる。計算方法としては、対象者母数の規模から統計的計算式で割り出す方法となり、結果は（図表２章ー③）となる。今回配布方法の主な対象は就労者であったため母集団を阿南市就労者数3万325人（2010年調査）とし、信頼レベルを95%とし許容誤差を±５%にした場合、必要なサンプル数は379サンプルであった。

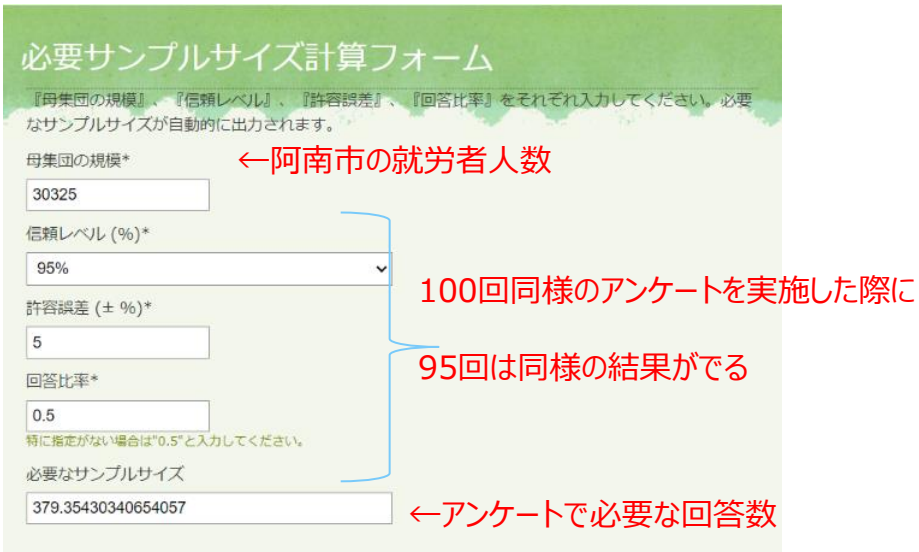
«調査結果を読み解く留意点»

今回は、サンプル数的には十分有効な回収数であるが、やや配布方法に偏りがあるため、特に回答数の少ない結果については参考値として留意が必要である。これは、統計的な有意の問題を意識しつつ、予算と労働力を最大限に考慮したアンケートの実施である。地方自治体では、政策実施になるべく予算を使いたい、一方でエビデンスとしての調査も必要と言うジレンマを抱えている。今回はその両方を配慮した調査であるため、やや偏りがある点の留意をしていただきたい。今後、エビデンスをとるためのデータ収集の効率的な方法は課題として残るが大きな前進と言える。

回収の偏り

前述のとおり「阿南市居住者」を対象にしつつ、主な回収先を企業を中心としたため、「就業者」を母集団としてアンケートの実施を行った。関係者や口コミといった偏りを生じる告知方法であるため、就業者の産業割合については偏りを極力少なくするため、回収された人の就業産業をカウントし、過不足がでないように回収調整を行った。その結果の偏りは（図表２章ー④）である。青枠の産業従事者からの回答がやや多いこと、オレンジの産業従事者からの回答がやや少ないことに留意が必要である。特に「卸売り・小売業」からの回答者が少ないことに留意していただきたい。

図表２章ー③　必要サンプルサイズの計算結果



図表２章ー④　産業別の偏り

			阿南市の実際の割合	アンケートの回収状況	差	
A	1	農業，林業	0.88%	1.35%	0.48	ポイント
B	2	漁業	0.21%	0.19%	-0.01	ポイント
C	3	鉱業，採石業，砂利採取業	0.16%	0.19%	0.03	ポイント
D	4	建設業	9.13%	7.16%	-1.97	ポイント
E	5	製造業	30.01%	22.82%	-7.18	ポイント
F	6	電気・ガス・熱供給・水道業	1.08%	6.77%	5.69	ポイント
G	7	情報通信業	0.25%	0.58%	0.33	ポイント
H	8	運輸業，郵便業	5.62%	0.77%	-4.85	ポイント
I	9	卸売業・小売業	16.76%	1.35%	-15.41	ポイント
J	10	金融業・保険業	2.40%	16.83%	14.43	ポイント
K	11	不動産業，物品賃貸業	1.29%	0.00%	-1.29	ポイント
L	12	学術研究，専門・技術サービス業	1.78%	1.55%	-0.23	ポイント
M	13	宿泊業，飲食サービス業	5.99%	0.97%	-5.02	ポイント
N	14	生活関連サービス業，娯楽業	3.23%	0.97%	-2.26	ポイント
O	15	教育，学習支援業	1.71%	2.32%	0.61	ポイント
P	16	医療，福祉	10.74%	6.19%	-4.55	ポイント
Q	17	複合サービス事業	1.64%	1.93%	0.30	ポイント
R	18	サービス業（他に分類されないもの）	4.48%	3.68%	-0.81	ポイント
S	19	公務（他に分類されるものを除く）	2.64%	18.38%	15.74	ポイント
T	20	分類不能の産業		0.77%	0.77	

3
UIターンの実態

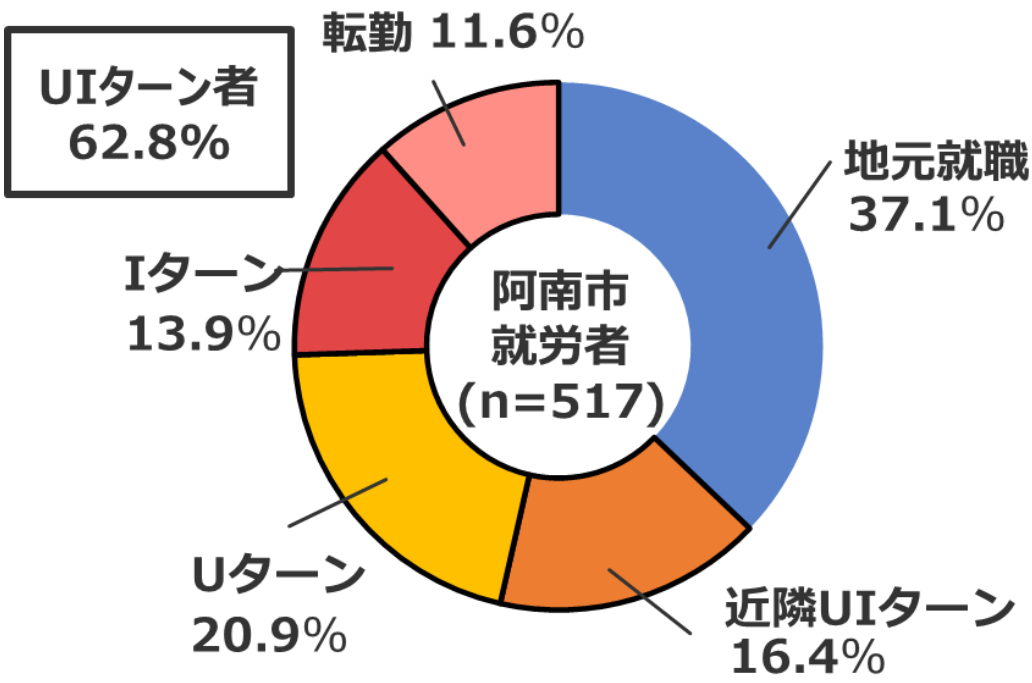
3-1. UIターン者の基本属性

阿南市就労者の中で UIターン者は全体の62.8%

地元就職が37.1%で最多、次いでUターンが20.9 % Iターン、転勤はほぼ同割合

阿南市の就労者517名を【現在の居住地】【出生地】【市外転居経験】【転入前の居住地】で地元就職とUIターンに分類、UIターン者の【阿南市への移住きっかけ】を勘案すると、＜地元就職＞＜近隣UIターン＞＜Uターン＞＜Iターン＞＜転勤＞の5特徴に分類される(図表3章ー①)。

図表3章ー① 阿南市就労者5分類の割合



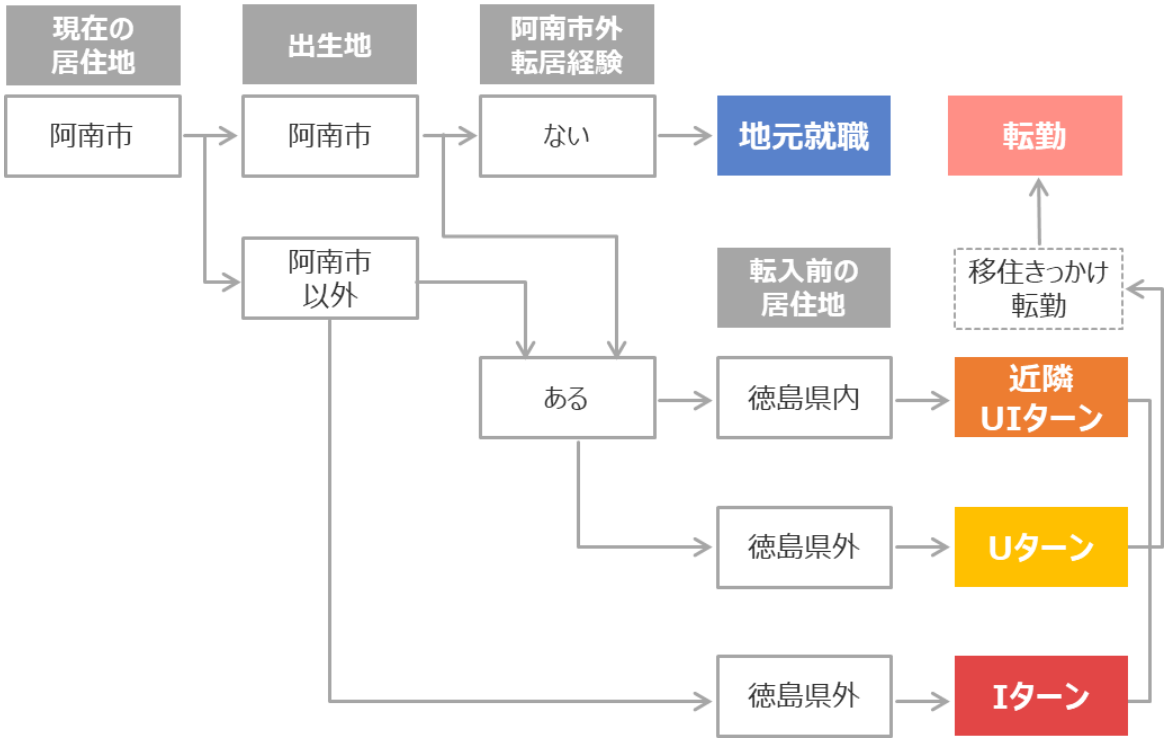
各分類方法は以下の通り。

- 地元就職は、現在の居住地「阿南市」｜出生地「阿南市」｜阿南市以外転居経験「ない」
- 近隣UIターンは、現在の居住地「阿南市」｜出生地「阿南市 または 阿南市以外の徳島県内 または 徳島県外」｜阿南市以外転居経験「ある」｜転入前の居住地「徳島県内」

  ※「近隣」は転入前の居住地が「徳島県内」で該当
- Uターンは、現在の居住地「阿南市」｜出生地「阿南市」｜阿南市以外転居経験「ある」｜転入前の居住地「徳島県以外」
- Iターンは、現在の居住地「阿南市」｜出生地「阿南市以外の徳島県内 または 徳島県外」｜転入前の居住地「徳島県以外」
- 転勤は、UIターン者で「移住のきっかけが転勤」に該当

※転勤は、自身と家族の付き添い転勤があるため、それらの影響が出る回答がある

図表3章ー② 阿南市就労者の分類チャート



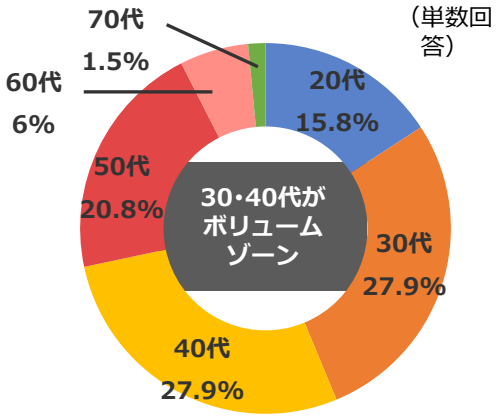
3-1. UIターン者の基本属性

UIターンの属性

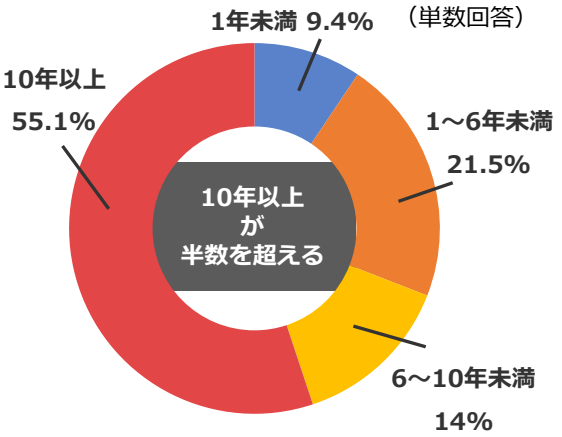
阿南市の就労者517名のうち、すべての移住者から自身でコントロールが出来ない受動的要因による移住となる「転勤」移住者を除いた265名のUIターン者（以降、すべてのUIターン者と表記）の特徴を詳細に確認した。年代では、30～40代が最も多くボリュームゾーン(図表3章ー③)となり、阿南市への転入歴では「10年以上」が半数を超える(図表3章ー④)。その他、阿南市以外への移住検討の有無は「検討していない」が7割を超え(図表3章ー⑤)、阿南市移住の最初の希望者は「自分」が7割を超える(図表3章ー⑥)結果に。また、転入前に希望していた職種は「公務員」が最も多く、次いで「技術系」、転入直後の職種は「公務員」が最も多く、次いで「技術系」となっている(図表3章ー⑦)。

また、出身高校別で阿南市就労者の分類傾向を見てみると、地元就職が目立つのが「阿南工業高等学校」「新野高等学校」「阿南工業高等専門学校」で、Uターンが目立つのが「富岡西高等学校」「富岡東高等学校」と卒業高校による違いがみられた。

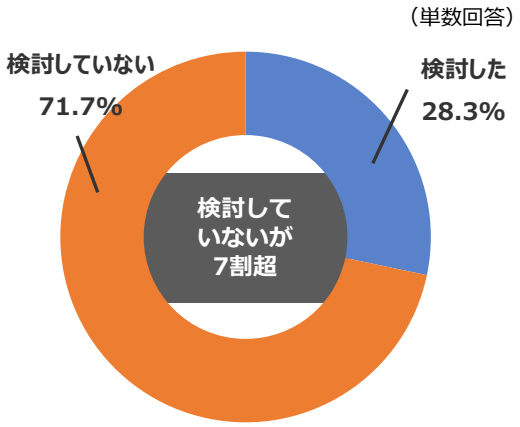
図表3章ー③ 年代別



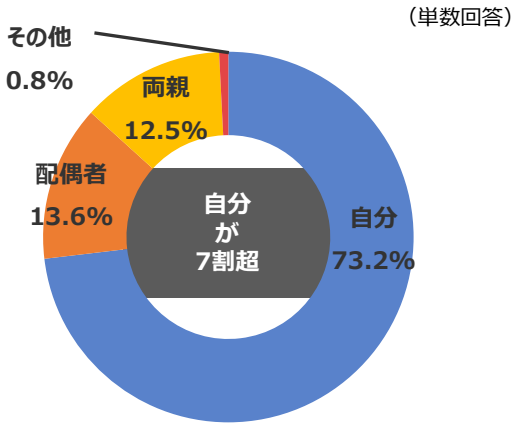
図表3章ー④ 阿南市への転入歴



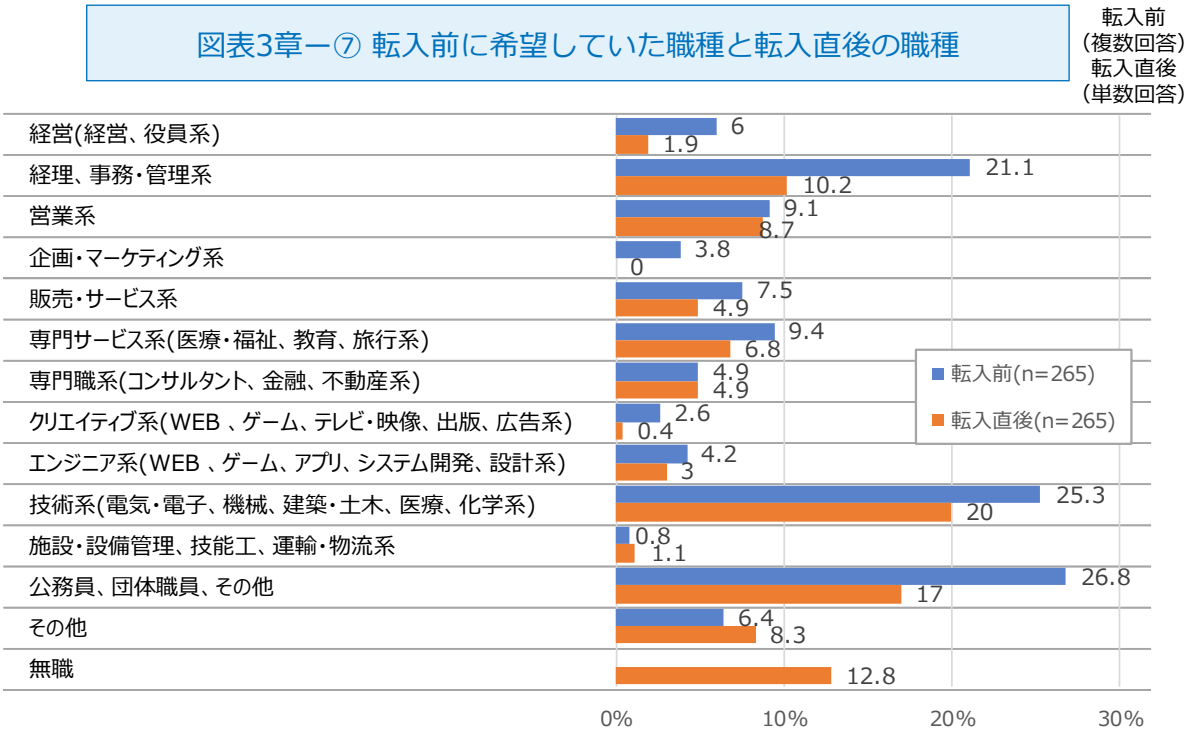
図表3章ー⑤ 阿南市以外への移住検討の有無



図表3章ー⑥ 阿南市移住の最初の希望者



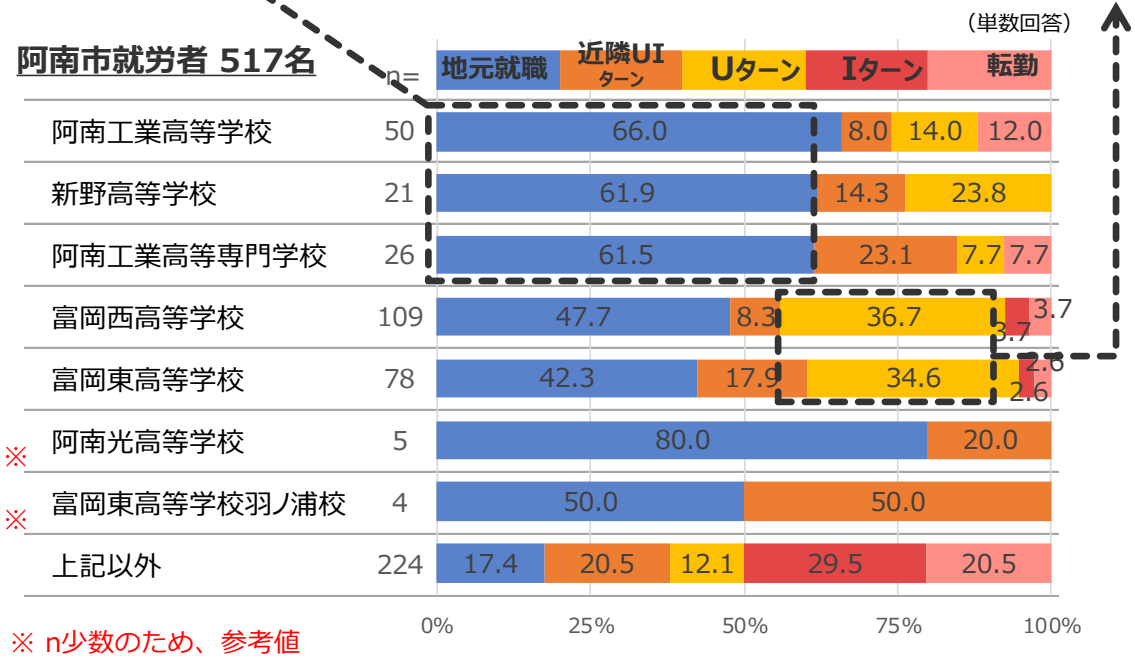
図表3章ー⑦ 転入前に希望していた職種と転入直後の職種



図表3章ー⑧ 出身高校別の分類傾向

地元就職 が目立つ

Uターン が目立つ



※ n少数のため、参考値

3-2. 阿南市への移住きっかけと決断要因

すべてのUIターン者

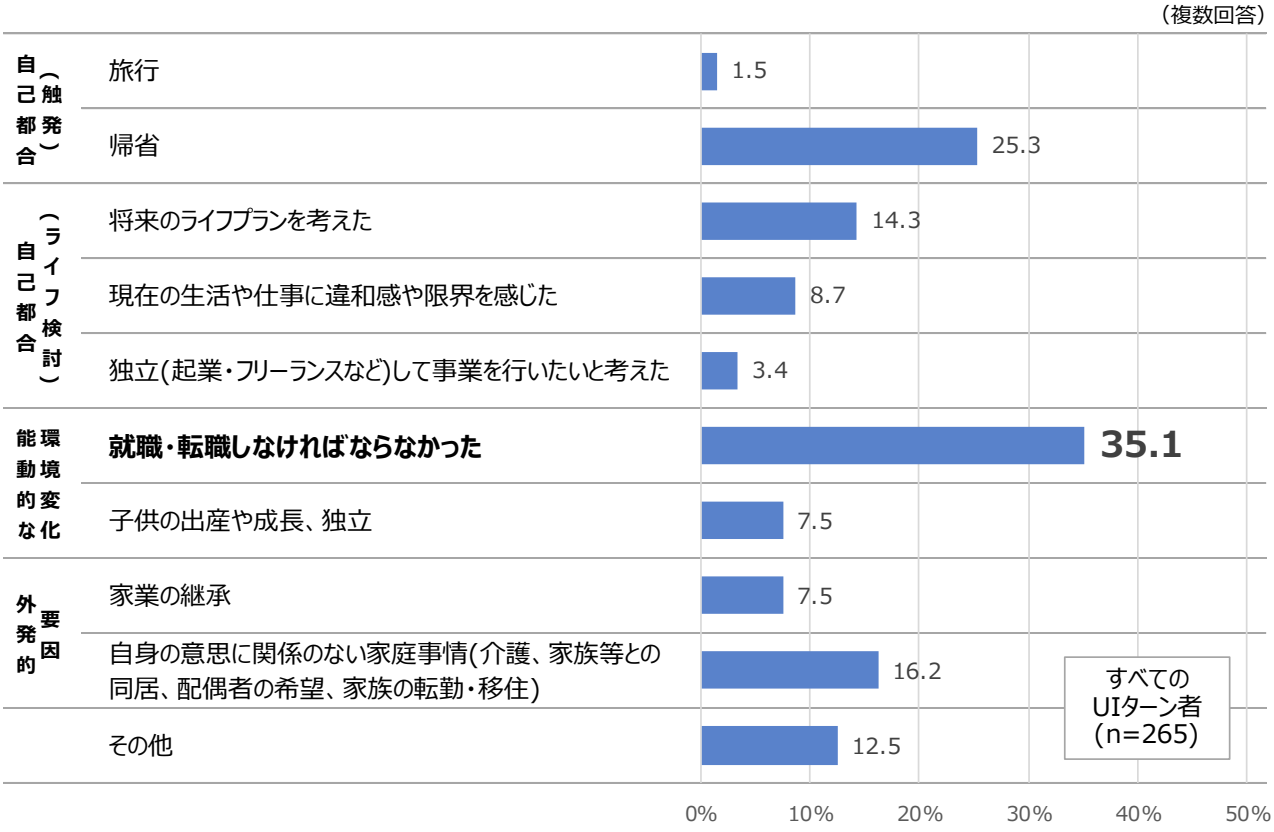
きっかけ

就職・転職＝仕事

本項では「転勤」を除くUIターン者(以降、すべてのUIターン者と表記)のみの移住について、きっかけや要因を見ていく。移住を考え始めたきっかけでは「就職･転職しなければならなかった」が35.1%で最も多くなり、就職･転職という「生き方を変化せざる得ないタイミング」をきっかけに移住を意識するようになっている状況が見て取れる(図表3章ー⑨)。

このことから「移住先で働ける」、つまり仕事が確保できることは移住に向け、重要な要因になると考えられ、このようなライフプランに変化が生じるタイミングで移住先として想起されることは、リアリティのある移住先として意識されることにつながるため、UIターン促進にはきわめて重要な点といえる。

図表3章ー⑨ 阿南市への移住を考え始めたきっかけ



決断要因

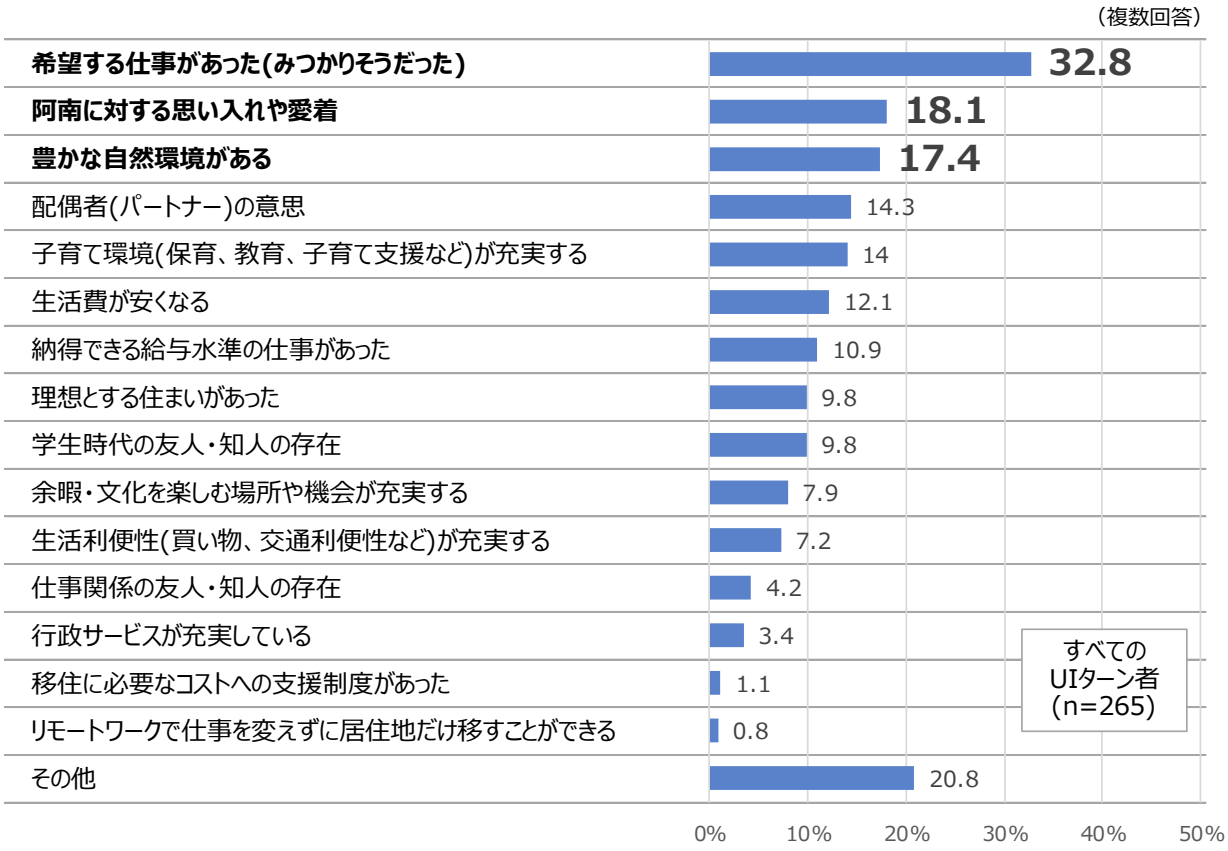
仕事の確保＆郷土愛＆豊かな自然環境

すべてのUIターン者の移住きっかけが「転･就職」という「仕事」に多い点がわかったが、その後の移住を決断した要因はどのような要因になるかを確認した。

最も多く挙げられたのが「希望する仕事があった（みつかりそうだった）」で32.8%となり、移住を考え始めるきっかけとなる「仕事」の確保が移住を後押ししている状況が見て取れた。すべてのUIターン者の移住の決断には、移住先での生活基盤の安定が必要不可欠になることは容易に推察でき、本アンケートでもそれを裏付ける結果傾向が見られた。

その他、決断要因の上位となったのは「阿南に対する思い入れや愛着」が18.1%、「豊かな自然環境がある」が17.4%で、決断要因の上位3要因は「仕事」、「郷土愛」、「豊かな自然環境」になっている。

図表3章ー⑩ 阿南市への移住決断要因



3-2. 阿南市への移住きっかけと決断要因

近隣UIターン

きっかけ

子供の出産&や成長、独立

決断要因

子育ての充実環境

ここからは阿南の就労者を5分類した結果で、UIターン者の傾向をより詳細に確認していく。はじめに阿南市転入直前に徳島県内に居住していた近隣UIターンの移住きっかけと決断要因を見ると、すべてのUIターン者共通となる「転･就職」以外のきっかけとして「子供の出産や成長、独立(16.5%)」や「将来のライフプランを考えた(12.9%)」、「現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた(12.9%)」が多く挙げられ(図表3章ー⑫)、子育て環境の変化を筆頭に、生き方を変化させる事由をきっかけとして移住を考え始めている状況が見て取れる。

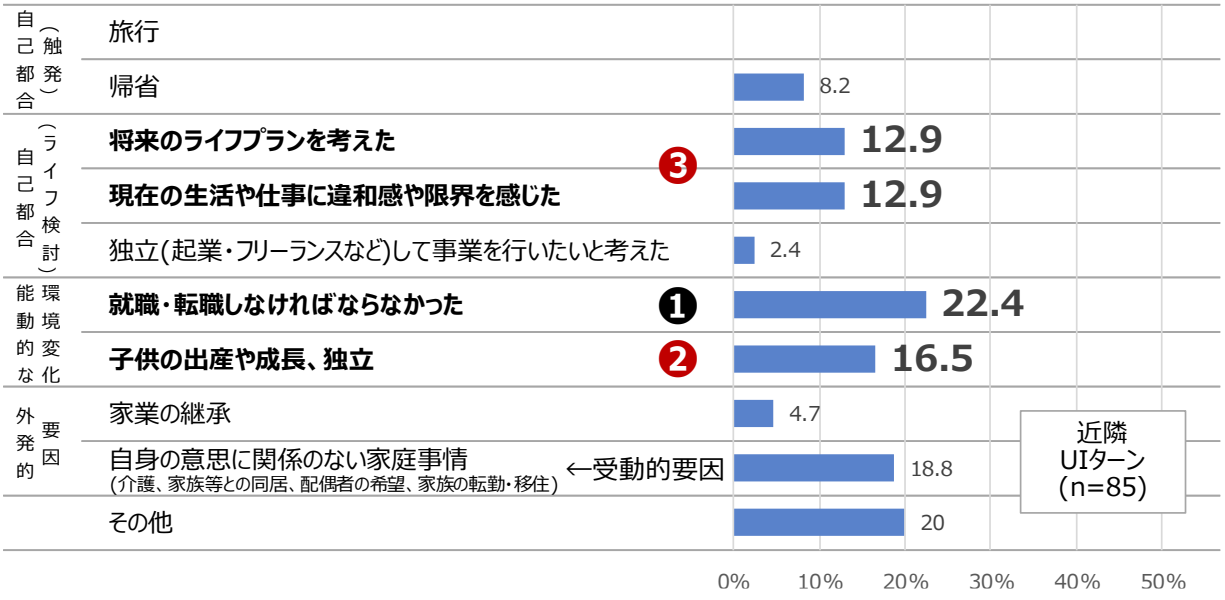
続いて、移住を決断させる要因がどのようになっているかを見ると、最も多く挙げられたのは「子育て環境が充実する(22.4%)」となり(図表3章ー⑬)、きっかけとなった出来事を充足させる要因となる。この結果から、移住のきっかけとなる事由に対するアンサーといえる状況が移住の決断を後押しする可能性が示唆される。

近隣UIターンの移住までの流れをまとめると下図表3章ー⑪のようになり、決断を後押しできる情報発信がUIターン促進には重要であると考えられる。

図表3章ー⑪ 阿南市移住までの流れ

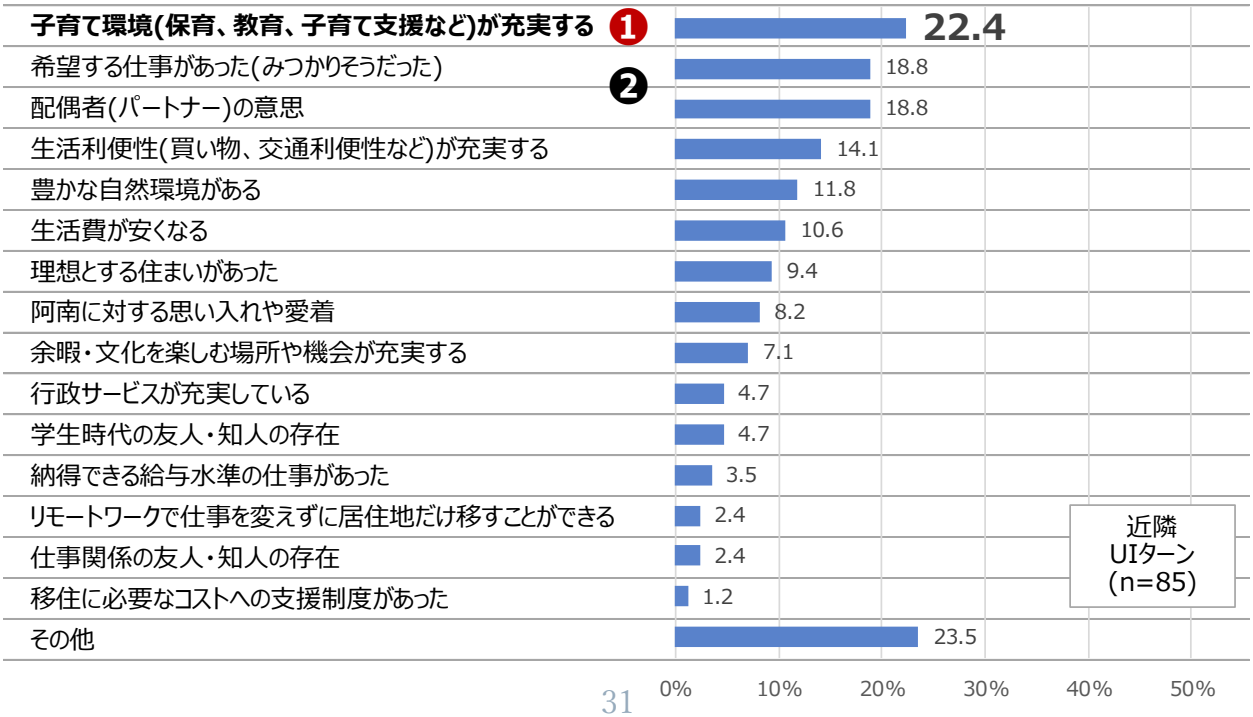
図表3章ー⑫ 阿南市への移住を考え始めたきっかけ

（複数回答）



図表3章ー⑬ 阿南市への移住決断要因

（複数回答）



3-2. 阿南市への移住きっかけと決断要因

U ターン

きっかけ：**帰省**

決断要因：**阿南への愛着**

友人や知人

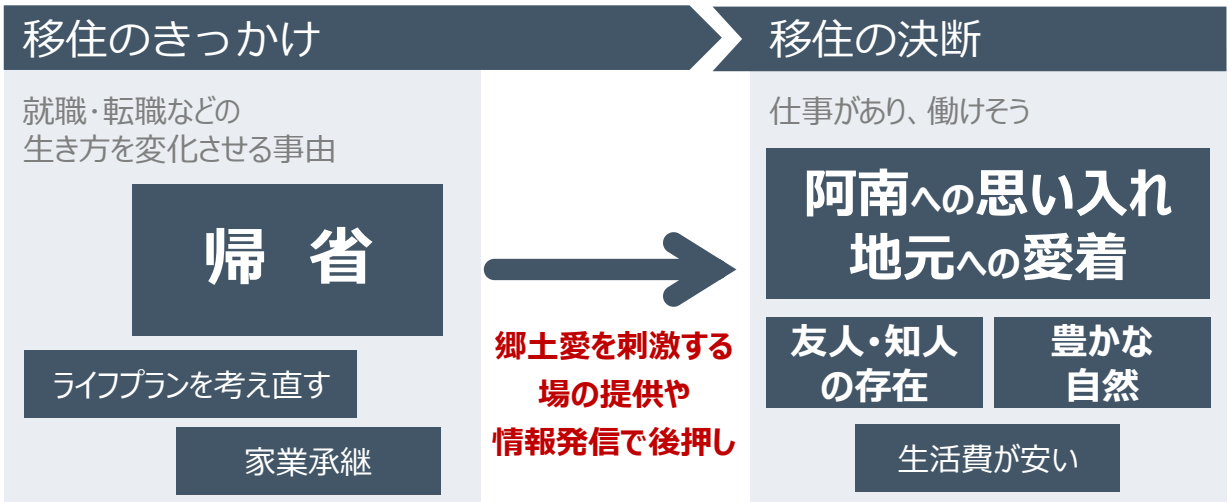
Uターンの移住きっかけでは、「帰省(48.1%)」が最も多く挙げられ(図表3章ー⑮)、分類の特性がはっきり表れる結果となった。

それでは、「郷土に戻る」決断を後押しするのはどのような要因になるのかを見ると、最も多くなったのは「阿南に対する思い入れや愛着(36.1%)」で(図表3章ー⑯)、郷土愛･地元愛が「戻る」決断を後押ししている状況が見て取れる。

その他「豊かな自然がある(17.6%)」や「学生時代の友人･知人の存在(16.7%)」も多く挙げられており(図表3章ー⑯)、阿南という郷土を離れる選択の中で「帰省」により、郷土とのつながりが維持され、帰省の度に触れる郷土の豊かな自然環境や友人･知人の存在が郷土愛･地元愛を醸成し、Uターンにつながっていく状況が推察される。

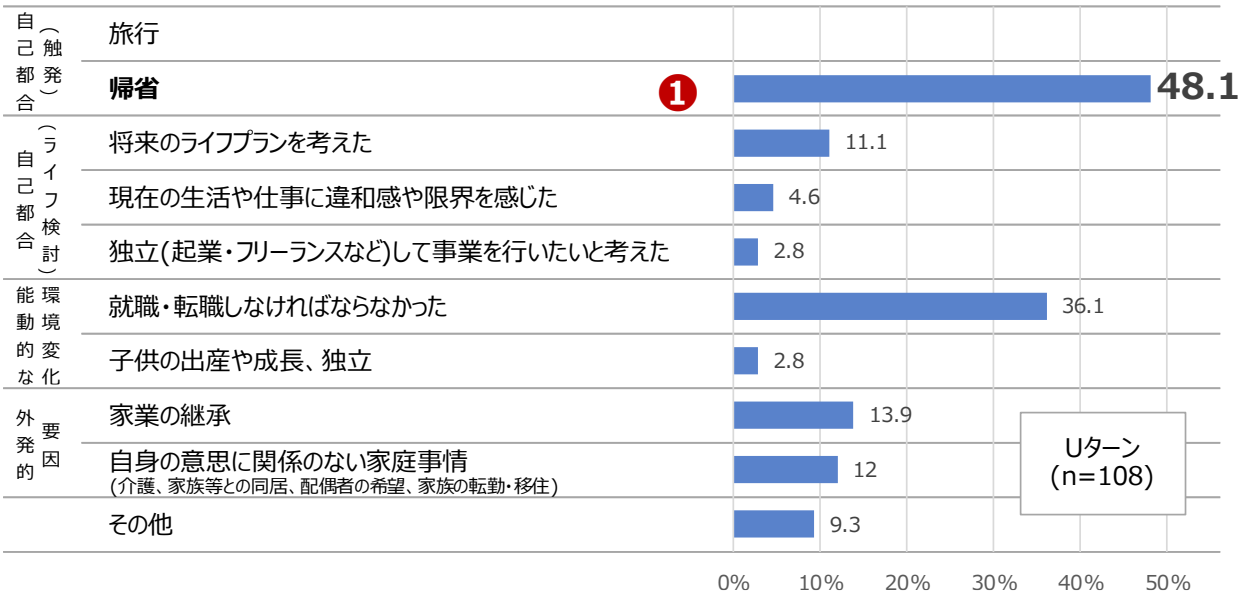
このようなUターンの移住までの流れをまとめると下図表3章ー⑭となり、常に郷愁を刺激する「場」の提供などで郷土愛･地元愛の醸成の一旦を担うことで、Uターンの促進を図れる計可能性が感じられる結果となった。

図表3章ー⑭ 阿南市移住までの流れ



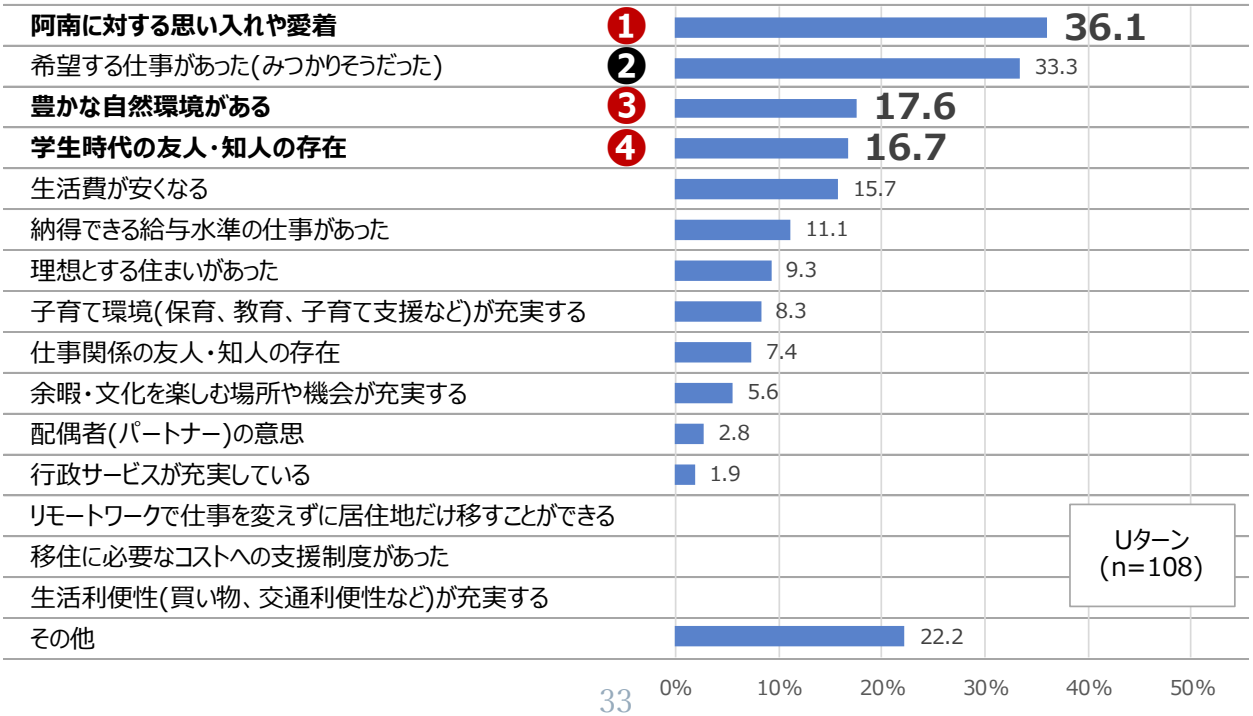
図表3章ー⑮ 阿南市への移住を考え始めたきっかけ

（複数回答）



図表3章ー⑯ 阿南市への移住決断要因

（複数回答）



3-2. 阿南市への移住きっかけと決断要因

I ターン

きっかけ：**将来のライフプラン**

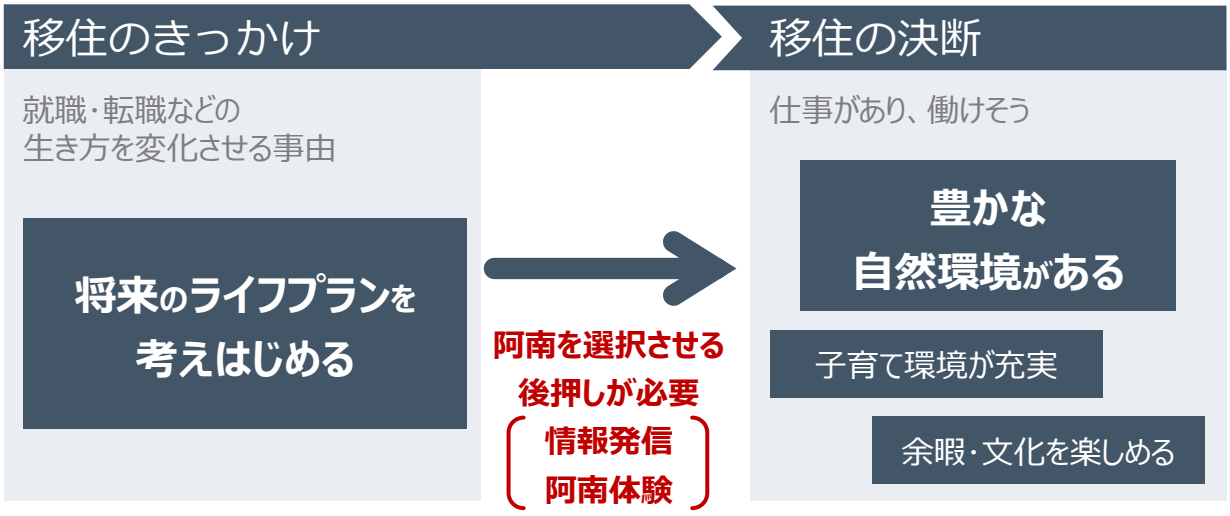
決断要因：**豊かな自然**

Iターンはここまでの近隣UIターンやUターンとは異なり、阿南や徳島における地縁･血縁を持たない特性となる。すべてのUIターン者のきっかけで最も多い「就職･転職」 が、Iターンではより強く表れたが、仕事面以外では「将来のライフプランを考えた(20.8%)」が最も多く挙がり(図表3章ー⑱)、生き方の変化を求めて移住を考え始めている状況が見て取れる。

決断要因では、きっかけ同様にやはり仕事面が強く表れ、「移住先で働ける」ことに強い意識が向いている状況も推察される。仕事面以外では「豊かな自然環境がある(23.6%)」、「余暇・文化を楽しむ場所や機会が充実する(12.5%)」、「子育て環境が充実する(12.5%)」などが挙げられ(図表3章ー⑲) 、きっかけの「生き方の変化の求め」に対するアンサー的な要因となっている。

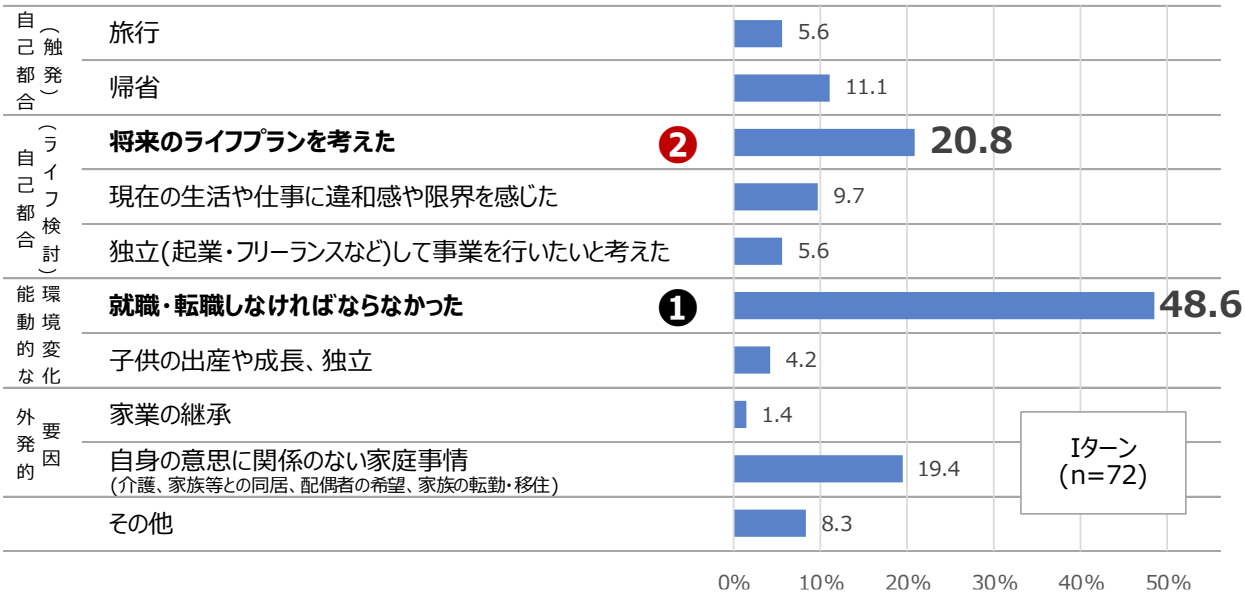
令和3年までの調査では、Iターン予備軍といえる一部の関係人口からも移住の大きな牽引力として、「移住先で働ける＋豊かな自然の存在」が挙げられており、今回のアンケートでは仕事面は強く表れたが「自然」を求める声があまり出ていない。阿南市には豊かな自然があり、自然を活かしたIターン施策を展開できる地域資源がある。下図表3章ー⑰のように、移住先として阿南を選択させる後押しとして、絶え間ない情報発信や阿南体験の提供が、Iターンの促進には重要となる。

図表3章ー⑰ 阿南市移住までの流れ



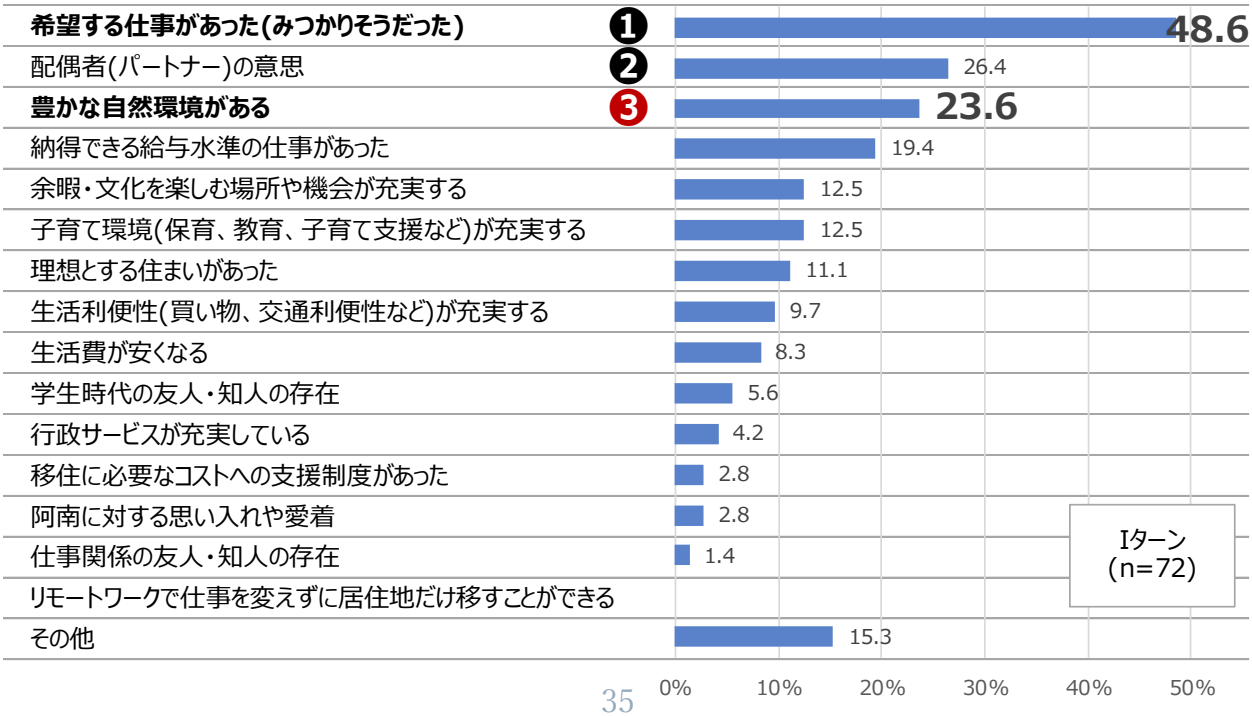
図表3章ー⑱ 阿南市への移住を考え始めたきっかけ

（複数回答）



図表3章ー⑲ 阿南市への移住決断要因

（複数回答）



3-3. 仕事の決まり方

ハローワーク・求人誌と併せて
人を介した紹介が強い

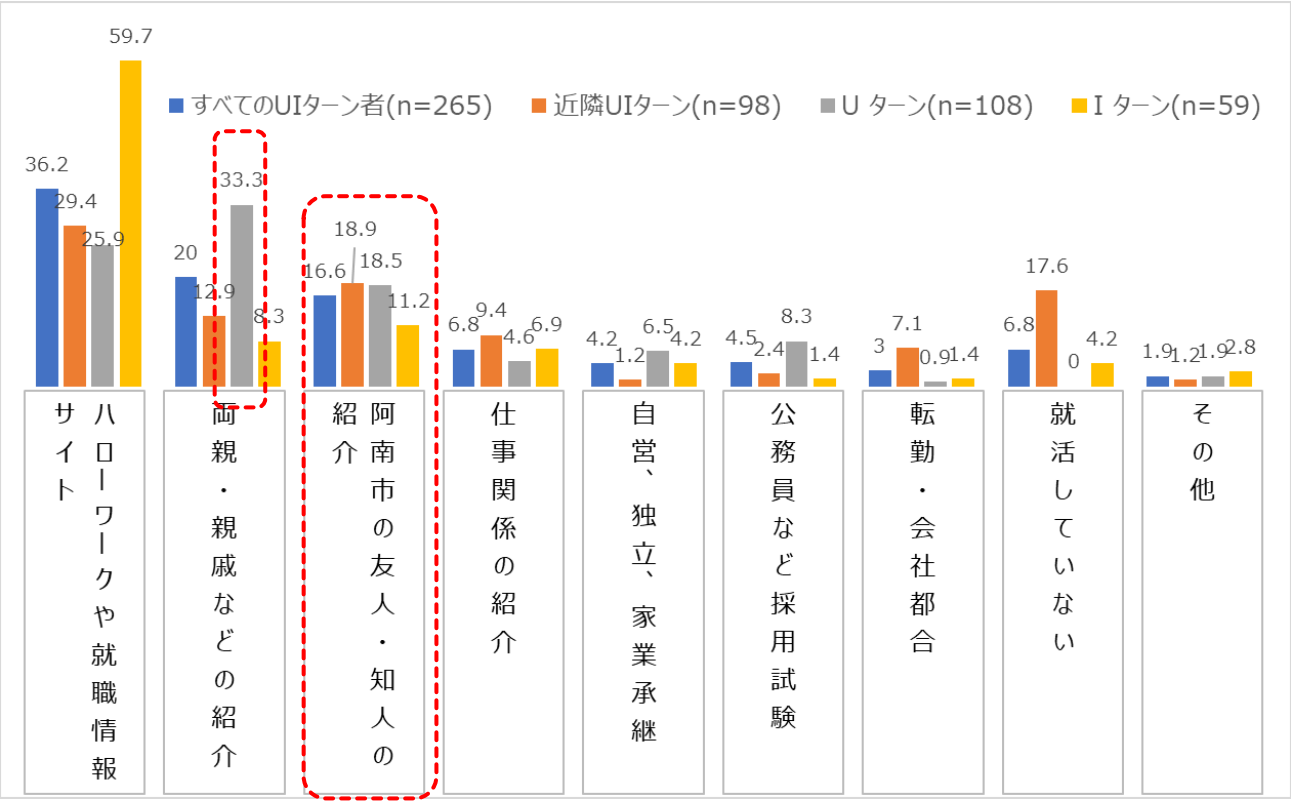
Uターンは「両親・親戚の紹介」が突出、
「阿南市の友人・知人の紹介」が全体で３番目に多い

実際に阿南市での仕事はどのような形で決まっていったのかを確認すると、すべてのUIターン者では「ハローワークや就職情報サイト」が最も多く挙げられるが(図表3章ー⑳)、これは移住転職の一般的な傾向と言える。

特徴的なのは、全体で2番目に「両親・親戚の紹介」が多いこと、次いで「阿南市の友人・知人の紹介」が挙がっている点である。

移住タイプ別にみると、Uターンは「両親・親戚の紹介」が33.3%と最も多い。また「阿南市の友人・知人の紹介」が18.5%であり、それらを合わせると51.8%と半数以上が人を介した紹介で仕事が決まっている特徴がみられた。

図表3章ー⑳ 阿南市での仕事の決まり方



参考資料
調査テーマ：「就職活動の意思決定に影響を及ぼした人は誰か」をテーマに・調査期間 ：2021年6月9日（水）～6月20日（日）
・調査方法 ：インターネット調査
・調査対象 ：ハイクラス学生
・調査地域 ：全国
・有効回答者数：136名（2022年卒業予定学生77名、2023卒学生予定学生59名）
・実施機関：株式会社ウィビッド
↓↓調査結果概要
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000047503.html

また、Iターンにおいては「ハローワークや就職情報サイト」が最も多く59.7%であり、これも一般的に妥当な結果と言える。対して「阿南市の友人・知人の紹介」が11.2%程度いる点に着目したい。これは、少なからず関係人口などで阿南市以外の人が阿南市での友人・知人ができたことがきっかけになって移住に至った人が一定数いることの表れと考えられる。

同級生や先輩の存在は、新卒就職生には大きい「先輩の阿南市での生活をみて自分に向いている」など

ちなみに、「就職活動の意思決定に影響を及ぼした人は誰か」というテーマのアンケート調査がある（上記コラム参照）。親が就職活動の意思決定に最も影響を及ぼしたと回答した割合は全体の22%であり、それを上回って**最も影響を及ぼしていたのは全体の36%で「先輩」**であることが分かった。加えて、就職活動を始めたばかりの23卒の方が親の影響を受けていると回答した割合が高い（22卒は27%、23卒は18%が親の影響と回答）ことから、就職活動を進めていく中で、インターネットや一般的な就職情報だけでなく、徐々に先輩や友人からのリアルな話の影響が大きくなっていくことが考えられる。

このことは、ヒアリング調査からも聞かれた。大学で県外に進学し阿南市にUターン就職した男性からは、「高校の先輩が阿南市で働いている姿が最終的な決め手になった」とのこと。具体的な就職先の紹介だけでなく、リアルな働いている姿を共有できることはUIターンの後押しに大きく影響があることが明らかになった。

Uターン者コメント

就職イベントで同級生が大勢いたのが心強かった 最終的には、先輩が働いている姿が決め手に

高校卒業後、大阪の大学へ進学しました。就職活動は関西での就職フェアなどには参加しつつ、地元に帰ったついでに徳島県の就活フェアにも参加しました。その時には、結構同級生が参加してて心強かったです。結果的に、大阪の会社からも阿南市の会社からも内定をもらえました。どちらにするか迷っていたのですが、最終的な決め手は高校の先輩が阿南市で働いていて、そのワークライフバランスが自分に合っているな～と思ったことです。

4

総括と提言

４．総括と提言

４-１．有識者・職員ワークショップでの意見

本年度のアンケート調査は、商工会議所の若者定住雇用委員会と阿南市役所との共同で実施。その途中結果報告と意見交換会を実施した。

①アンケート調査から読み解く　阿南市 UIJ ターン促進意見交換会

【開催概要】

- テーマ　アンケート調査から読み解く　阿南市 UIJ ターン促進意見交換会
- 日時 2022 年 2 月 6 日（月） 18:30～
- 場所 阿南商工業振興センター2 階
- 参集 阿南商工会議所、若者定住雇用委員会五役会、運営委員会委員ほか、阿南市ふるさと未来課 大正大学

②アンケート調査から読み解く　阿南市 UIJ ターン促進意見交換会

【開催概要】

- テーマ　アンケート調査から読み解く　阿南市 UIJ ターン促進意見交換会
- 日時 2022 年 2 月 7 日（火曜） 18:30～
- 場所 阿南市役所
- 参集　企画政策課、農林水産課、行革デジタル戦略課、まちづくり推進課、故郷「未来課

図表４章ー①　挙がった意見　＜カテゴリー別まとめ　１＞

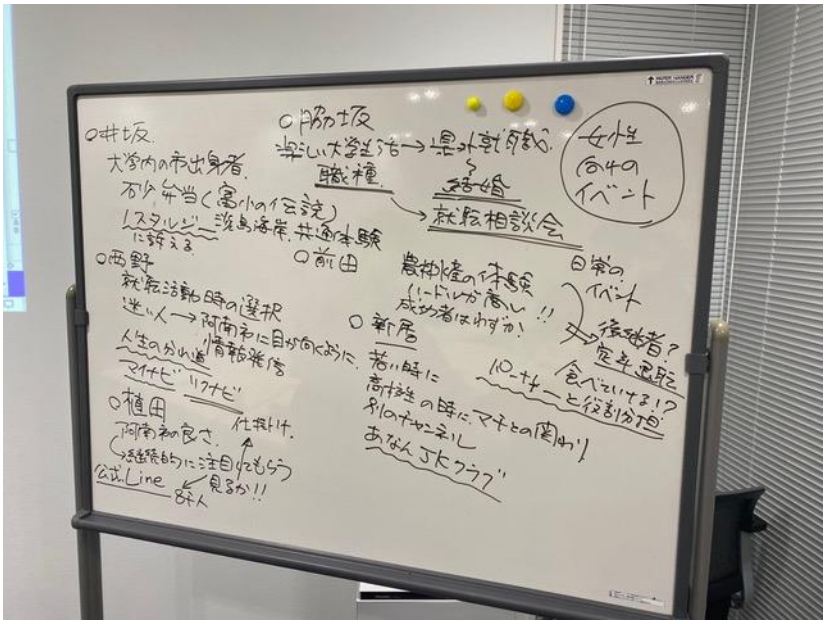
企業をもっと知ってもらう	阿南にもいい企業がたくさんあるので、都会で就職する前に同窓会＋企業説明会などを、市役所などが支援して（例：同窓会補助金）、地域との楽しいコミュニティの場を作れば、地元企業とのマッチングも期待できると思う。
	大学卒業時に地元も考えた場合、阿南の企業のことを知らないのではないか・・・もっと知ってもらうような施策が必要
	自分たちの時は先輩の活躍を見て後輩が就職を決めていた。高校時代に市内企業で頑張っている先輩の仕事ぶりを知ってもらう、自分の企業をPRする取組が必要ではないか。なんとか阿南市に目を向けてほしいし、地元企業とマッチングしてほしい。近隣の那賀町、美波町あたりからどれくらい定住、雇用に繋がっているのか聞きたいとも思う。私は同窓会、中学以来、五輪の年には必ずやっている。60歳を超えたら毎年やっている。もっと同窓会をやったらどうか。
自然環境	青年部では小中学生にシーカヤックなどで自然を体験してもらって、愛着を持ってもらう活動をしているが、アンケートに自然環境についての答えがなかったのでやや残念です。
	今の若い人には公園とか集う場所が必要ではないか。自然とか現状の街並みを生かした魅力づくりが大事。阿南の中心市街地には桑野川から水路が街を通っている。その水路沿いに桜を植えて散策ができるようにする、そして街を回遊できるような遊歩道コースを作る。沿線にある空き店舗を活用すれば、商人も集まってくる。そのように「街を歩く」っていうのがキーワードになると考えています。

図表４章ー②　挙がった意見　＜カテゴリー別まとめ　２＞

情報発信	いろんな企業を選べるように、日亜化学以外にも魅力的な企業があるという情報発信をしていくことが重要だと思った。
	情報発信が大事・・高校卒業して1～2年目ぐらいに阿南市の楽しさを体験するイベントをやったらどうか。県外の大学へ行って最初は絶対に盆と正月は帰って来る！面白いイベントがあれば、友達連れて帰って来るかもしれない。楽しさを植え付ける施策が必要。
	空家活用で農業・水産業をやってみたい人に住まいや就農の場を提供して発信してはどうか。これから市内企業も人手不足になるので、求人の情報発信をしっかりとしていくべきだと思う。
場の創出	阿南にもいい企業がたくさんあるので、都会で就職する前に同窓会＋企業説明会などを、市役所などが支援して（例：同窓会補助金）、地域との楽しいコミュニティの場を作れば、地元企業とのマッチングも期待できると思う。
	20以外の世代・・・30歳の成人式をするとかはいいと思う。都会の企業から転職したいと思っている人も多いので、地元就職へのきっかけにもなるかもしれない。
	人口減少で寂れていっている地域の祭りに参加してもらう仕組みもいいと思う。（美波町日和佐八幡神社の例　祭りを存続させるために、オープンにして誰でも参加できるようにした・・・神輿も復活したが、氏子関連で県外に出た人に手紙を出して担ぎ手を呼びかけて成果を出している。）遠回りでも、地域のコミュニティの中でイベントに参加するため帰ってくるなど・・Uターン組を捕まえるための何かのタイミングはとても有効で大事だと思う。
その他	IT企業など多様性のある企業を誘致する必要があると思う。佐世保市はハウステンボスが起爆剤になった。
	アンケート結果を聞いて思ったのは、地元に就職してもらう環境を整えなければいけないということ
	Iターンの起業や規模拡大がしやすいように規制緩和も含めて環境を整えていくべきではないか
	若者を呼びたい、雇用を確保したいという面から考えれば、市内定住にこだわらず徳島県というスコープで考えるのもいいのではないか？
	子育て施策は阿南市が充実しているので、所得の低い若者世代には住みやすいのではないか。経済的な支援も大事だが、遊ばせるところ、「買いたい、来たい・・」の部分がまだまだ足らない。（交流には力を入れているが・・・）あとは、家を建てやすい（宅地の確保）ような取組が必要ではないか。コストコを誘致したらどうか・・・「買いたい、来たい・・」の観点から、例えば祖谷のフォレストアドベンチャーのような・・わざわざ阿南に来るような誘致施策も必要ではないかと思う。
	若者に阿南に住んでもらうためには、まちに魅力があることが大事。阿南の魅力って何？娯楽って何？

図表４章ー③　挙がった意見　＜カテゴリー別まとめ　３＞

就活の＋α	帰ってくるきっかけは就職がほとんどだと思うので、就職活動するときにどこを選択するかが重要・・・人の繋がりももちろんあるが、迷っている人をどう取り込むか・・日亜だったら就職需要はあるので、迷ってる人にアピールできればいいのではないか・・・
	女性の場合、製造業というよりは・・多様な職種に魅力を感じていると思うので、そういう就職相談会があってもいいと思う。
	自分の求めている求人が少ない。どの会社でどんな仕事をしているのかわからない・・4割以上あった。インターネットで検索している・・これも4割あった。各企業もWEB発信の強化には努めているが、外から見たら企業決めうちの人しか繋がらない・・・阿南就職と検索してみると出てくるのはリクナビ、マイナビというのが現状。ふわぁっと阿南に帰ろうかな・・どんな仕事があるのかな・・・という人から見れば、わかりにくいのかなという状況です。
体験	都会の魅力に負けない、地元に帰りたいと思わせるようなアイデアは浮かばない。阿南市出身者の連帯感を高めるような方法があれば・・ 砂弁当（富小の思い出）のような共通体験は一つのヒントかも・・
	気楽に農業体験ができるというのもいいかも・・・成功事例が注目されているのでハードルが高くなっている気もする。本格的にやろうと思ったら自己資金がかなり必要なので、かなりの覚悟がいる。それと体験イベントもまだまだ認知度が低いので、課題がある。
情報発信	県外に出た人でも継続して阿南市のことを考えていてほしい・・が、都会は楽しいし、阿南市が嫌だから出て行った人もかなりいる・・・そんな人たちにどうアプローチしていけばいいのか・・・今考えています。仕事柄、LINEの活用とか考えてしまうけれど、阿南市公式LINE（現在登録8千人）とか登録してても見るかな？というのがあります。見るための仕掛けがいると思う。このあたりを議論していかなければと思う。
	高校生向けのイベント、やりっぱなしで彼らが今どうしているか気になるところであありますが・・30代くらいで転職して帰ってくるよりは、大卒の時点で帰ってくるのが一番可能性が高い。今なら高校卒業してからも繋がれるチャンネルが作れるのではないか・・・登録した人でLINEとかで繋がれる。
	大学や就職したらバラバラになるので、高校卒業までに入ってもらうのがいいと思う。就職で都会か地元かの二択になった時に、LINEで繋がっていることが地元に決めるきっかけになるかもしれない。
	改善策としては散らばっている情報をまとめるポータルサイトが必要ではないかというところです。そのたたき台ですが、行政がそのポータルサイトを用意する。企業はそれぞれの会社情報の紹介を・・掲示板のようなイメージです。更新を頻繁に行うのが大事。月１回は必ず更新。企業側にも更新？いずれにしても、マンパワーは必要！行政からの就職斡旋は制約がある。就職はそれぞれに問合せ？ハローワークの立ち位置、雇用協定を市で結んでいるので、連携は可能かな



４-２．調査からみえてきた移住先としての強み

これまでに調査してきた内容および、ワークショップやヒアリング調査で出てきた意見から、UIターン者からみた「阿南市らしさ」や移住を牽引する地域資源の強みについて、かなり多くの人から以下の４点が挙げられており、これは「阿南市らしさ」であり阿南ブランドの核をなすものである。

阿南市の地域資源の強みとして①仕事がある、②豊かな自然環境、③生活が豊かで便利、この３要素に加え、移住決定に影響を得ている　④人とのつながりをいかにUIターン施策に組み込んでいくかがキーポイントとなる。

強み１　仕事がある

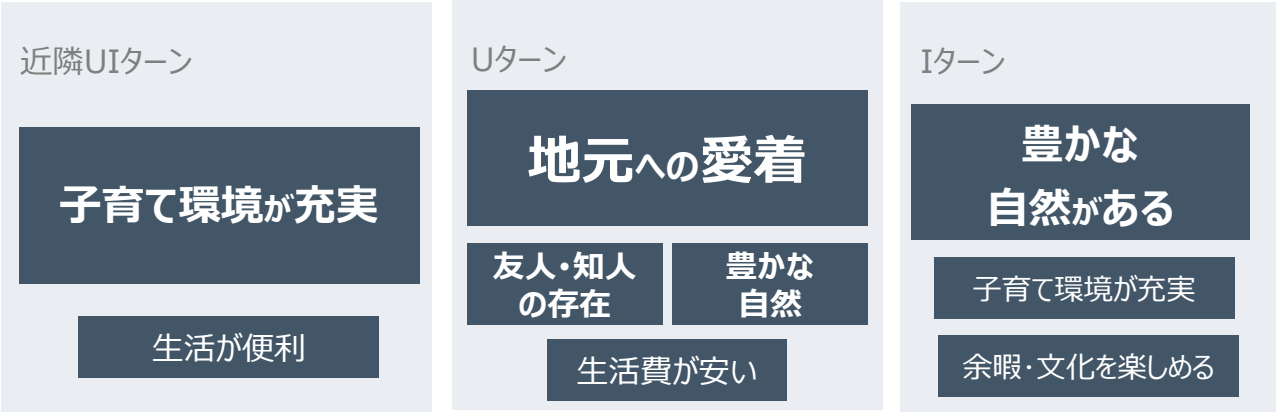
強み２　豊かな自然環境

強み３　生活が豊かで便利

（子育て環境、物価、余暇・文化）

強み４　人とのつながり

図表４章ー④　UIターン各属性の移住決断要因（仕事がみつかりそう以外の他要因）／（一部再掲）



4-3．調査からみえてきた課題

これまでに調査してきた内容から、UIターン促進のための課題を整理する。

（ここでは地域資源としての課題を言及するのではなく、あくまで促進のための政策につなげるための戦略面に焦点をあてる。地域資源の課題解決は一朝一夕でいかないものであり、また市の総合計画にて全体推進しているものであるからだ。例えば、「就職先がない・選択肢がない（自由コメント集より再頻出コメント）」などの意見は地域資源の課題であり、それは本論では焦点をあてない。一方で、「市の政策を積極的に発信して欲しい・情報発信力が無い（同コメント集再頻出コメント）」などは、*UI*ターン促進のための戦略面の課題であり本論での議論の対象と考える。）

課題１　UIターンのタイプ別のフォーカス戦略がやや曖昧
課題２　強みである「人」との地域交流・友達作りの場の不足（あるいは情報発信不足）
課題３　本市への移住・定住を決断させる効果的な情報発信がやや不足
課題４　高校卒業後の地域との関わる機会がやや不足

課題１　UIターンのタイプ別にフォーカス戦略がやや曖昧

本市の移住・定住に関する施策については、県内他市町に先んじて行っているものも多く、現状分析で示したように移住者全体の数をみても行き詰まりとは言えず現在の方向性は効果を上げているものと言える。また、本市の移住施策はSUPや野球のまち、お遍路さんや大学交流などバリエーションに富んでいる点も非常に有益に働いている。一方で、明確に特定の属性を対象とした戦略にまで落としこまれていない。そのために効率が悪くなっている側面があると推察される。これまでの調査からも、UIターンにいるさまざまな属性はそれぞれに特徴的であり、UIターンのきっかけや最終的な決定要因もまちまちである。これらのことを考えると、本調査から明らかになってきたUIターン属性を基本に、各属性に対するフォーカス戦略をたてることが必須と言える。

課題２　強みである「人」との地域交流・友達作りの場の不足（あるいは情報発信不足）

今回のアンケート調査やインタビューから、「友人・知人の存在」がきっかけで移住を考えたり、決定させたりしている背景がみえてきた。現在は、UIターン政策として移住イベントや体験会などさまざまな催しが行われており、有益に働いていると言える。一方で、それらに参加した後の人との交流を深める場や体験にまで深める点ではまだ課題が残っていると言えそうだ。

実際のIターンからの意見では「移住の人だけで活動せず地域の人と一緒にいろいろな活動ができたら良い」や「UIターンの希望者やされた方と我々（ボランティア団体）をつなぐしくみが薄いように思います」（自由コメント集より）など、地域交流や友達作りの場の提供に関する意見が多く挙がっている。

単なる参加型イベントから、地元の人との交流が深まる体験へと場や機会を創出することが、今後の伸びしろとして挙げられる。

課題３　本市への移住・定住を決断させる効果的な情報発信の不足

今回のアンケート調査やインタビューでは「市の施策を積極的にアピールして欲しい」や「豊かな自然のアピール・利活用」といった情報発信に関してのコメントが多く寄せられた（図表4章-⑤）。詳細には、特にIターン者からは「自分が何の行政サービスが利用できるかわからない」、「阿南市が個人や地域に対して何をしているかよくわからない。地域イベントやボランティア等の開催日や情報などもわかりやすく公開してほしい」（自由コメント集／別冊参照）といった意見であった。阿南市においては、UIターンに関する様々な施策に取り組んでいるが、それらの情報が移住検討者に届いていない可能性が考えられる。

昨今は情報入手経路が個人の日常生活スタイルや嗜好によってかなり異なる傾向がある。このことから、先の課題１とも関連するが**UIターンタイプ別に必要とする情報や、情報とのコンタクトポイント**（企業などから発信される広告・宣伝のほか、クチコミやSNSの書き込みなど、何らかの情報に触れる機会や媒体）**が異なる**ことから、それぞれにマッチした効果的な情報発信の戦略が必要と考えられる。

課題４　高校卒業後の地域と関わる機会がやや不足

阿南市では「高校生ミライ会議」や地域連携活動など、高校生の地域活動の積極的な参加が見られる。一方で、高校卒業後の若者と市との接点がやや少ない印象である。これは、これまでは高校という単位で情報の浸透がなされ、地域活動への契機が存在していたが、卒業後にその契機が失われてしまうことが要因の一つと考えられる。忙しくなる年代となることも考えられるが、これまで積極的に地域に関わってきた高校生＝**地域に愛着を持っている若者が継続的に地域に関わる機会の創出**、また**その情報発信**が有益に働く可能性を秘めていると考えられる。

図表4章ー⑤　アンケート自由コメントの頻出カテゴリーランキング（別冊参照）

阿南市の移住やUターンなどの施策に対する意見や要望

要旨カテゴリー	回答数
就職先が無い・選択肢が少ない	23
市の施策を積極的に発信して欲しい・情報発信力が無い	21
子育てに関する環境整備・支援・補助金の充実（充実している）	19
公共交通機関の利便性が悪い・車がないと生活できない	12
その他（感謝・個人的な伝達・内容のない愚痴・アンケート内容のクレーム等）	11
企業誘致の促進	10
地域交流・友達作りの場の提供	10
豊かな自然のアピール・利活用	10
空家の活用	9
魅力のある街づくりをして欲しい	9
U・Iターン者に対する支援・補助金の充実	9
求人情報の発信・企業紹介	8
給与水準の改善	8
大型商業施設が少ない	8
特になし	8
飲食店が少ない	7
娯楽施設が少ない	7
公園の造成・整備	7
教育施設の充実・大学の創設・学校の存続	6
観光・レジャー施設の充実	6

要旨カテゴリー	回答数
その他（住宅事情）	1
イベントの開催・情報発信	5
起業しやすい環境の整備・支援	5
商店街に活気が無い・空き店舗の利活用	5
子供が遊べる所を増やしてほしい	5
子供連れで行ける施設が少ない	5
住宅建築に関する法整備・宅地開発の促進	5
他自治体の施策を取り入れて欲しい	5
病院が少ない・通いづらい・医師レベルが低い	5
福利厚生の充実	4
道路インフラの整備	4
高速道路の建設	4
ふるさと体験学習・地元に愛着を持つための教育	4
住宅情報の発信	4
住宅補助・支援の充実	4
少子高齢化対策	4
無駄な補助金が多い・税金が高い	4
治安の維持・強化	4
閉鎖的な地域がある	4
食材・食文化のアピール	4

要旨カテゴリー	回答数
その他（産業・就労）	3
保育施設の充実	3
家賃相場が高い	3
職員の対応が良くない	3
その他（行政）	3
防災対策の強化	3
地元雇用の促進・優遇	2
就農支援	2
その他（商業施設）	2
渋滞の解消	2
交通費に関する補助の充実	2
教育制度の改革	2
図書館の充実	2
奨学金制度の創設・教育の無償化	2
移住体験が出来る仕組みがあると良い	2
阿南市の魅力度調査を実施する・行政と意見を交換できる場を作る	2
元々の在住者に対する還元がない	2
その他（生活）	2
その他（交通）	1
その他（住宅事情）	1

4-4．次年度以降の集中と選択ポイント（提言）

これまでの調査でみえてきた阿南市の強みを生かし、前節で整理した課題の解決に有益となる施策を提案する。提案の方向性としては、阿南市の強みを生かしそれをそのまま情報発信強化につなげるための「提案１　情報発信」と、特にこれまでフォーカス戦略がややあいまいであったUターンを対象に、地元での友人知人との再会と仕事をキーとした「提案２　交流の場づくり」である。

提案１　情報発信

①「人」と「仕事と自然」にフォーカスした「阿南の今」を発信するサイトのOPEN

②若者、UIターン者が運営に関わりプロモーター化へ：企画会議の実施

提案２　交流の場づくり

①盆暮れ正月の帰省タイミングで、イベントを開催

②30歳成人式、40歳成人式の開催

提案１　情報発信

①「人」と「仕事と自然」にフォーカスした「阿南の今」を発信するサイトのOPEN

阿南市には、生活の利便性がありつつ、海や山、観光スポットやマリンスポーツなど、多様なライフスタイルを選択できる強みがある。UIターンを検討しはじめた時に必須となる検討要素が「仕事」であるが、そこにさらに阿南市の強みである「人」と「自然」をからめた「阿南の今」を発信するサイト《阿南人》をオープンする（図表4章-⑥）。

②若者、UIターン者が運営に関わりプロモーター化へ：企画会議の実施

《阿南人》を一般的な「移住情報サイト」にせず、**さまざまなUIターン者、検討者、阿南在住者がつながる役割**を持たせる。そのための仕組みの1つとして、サイトの記事企画に若者やUIターン者に参加してもらう。そして彼らがプロモーターとなる仕組みづくりをする。

図表4章ー⑥　「阿南人」のつながる役割概念図

提案２　交流の場づくり

①盆暮れ正月の帰省タイミングで、イベントを開催

阿南市に移住を考えるきっかけとして最も多かった「帰省」のタイミングで、「友人・知人」と再会する機会を開催。初日の出イベントや同窓会支援などが考えられる。これらは、今後地域の人々を巻き込んで企画し、実施することでより人との地域交流の機会を作れる。

②30歳成人式、40歳成人式の開催

ＵＩターンを考えるきっかけとして、仕事やライフプランの変化のタイミングが多くあがっている。こうした時期に、阿南市での交流機会を作ることがUターン促進に期待できる。また、同時に企業による仕事マッチングの機会提供となることも期待できる。

図表4章ー⑦　「阿南の今」を発信するサイト　「阿南人」の仮UP版

https://www.ananjin.com/

コンセプト　阿南とつながる

いま阿南人、むかし阿南人、たまに阿南人、これから阿南人、なにか阿南人とを「つなぐ」きっかけつくりのサイト

POINT　最近の阿南あれこれまとめ情報

阿南市のイベントや情報を集めたコーナー。管理人が集めた情報の他、SNSや広報あなんで発信されている情報を「シェア」する。

◆UIターン検討者も参加できるイベント

◆阿南情報を発信している人ともつながれる

POINT　阿南で働くことのイメージ訴求

「阿南には仕事がない」とよく言われるが、いえいえあります！　農業、飲食業、観光業、製造業、サービス業、ボランティア活動など、多様な活躍の場。そんな舞台で躍動する「人」の素顔、未来への可能性、阿南愛を語ってもらい発信。

◆毎年、阿南市で実習を行う大正大学地域創生学部の学生がインタビュー取材

◆高校生が阿南のお仕事を取材という形式もあり